

Concert

KORG DIGITAL PIANO

C-303 取扱説明書
C-505

KORG

このたびはコルグデジタルピアノ・コンサート C-303/505をお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

目次

はじめに

取り扱いなどのお使いになる上でのご注意や、各部の機能について説明しています。

ご使用になるまえに	3
バックアップバッテリーについて	3
特長	4
スイッチの表記について	4
各部の名称	5

基本編

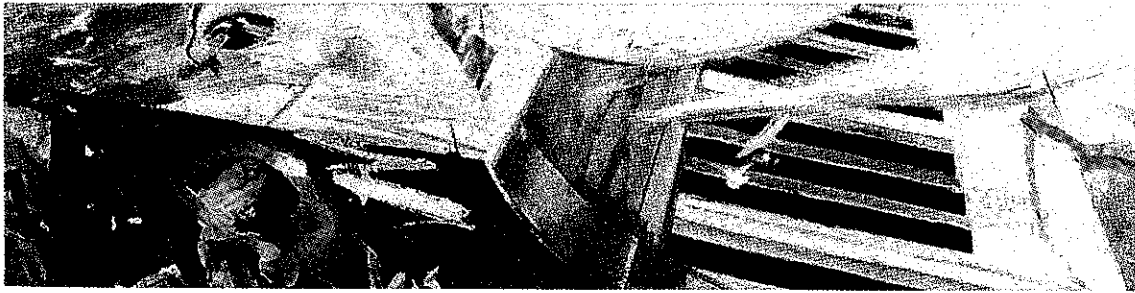
C-303/505を演奏するうえで、知っておきたい基本的な操作について説明しています。

弾いてみましょう	7
電源を入れます	7
音量を調節します	7
音色を指定します	7
音の明るさを調節します	8
音色にエフェクト(効果)を加えます	8
デモ演奏を聴いてみましょう	9
異なる2種類の音色を組み合わせます	10
レイヤー・モード	10
(一つの鍵から同時に異なる2種類の音色を出す)	
スプリット・モード	11
(高音鍵と低音鍵とで異なった音色を出す)	
ペダル効果	13
メトロノーム機能	15

レコーダー編

本体のレコーダーを使った演奏の録音、再生の方法を説明しています。

演奏を録音(レコーディング)してみましょう	17
あとどのくらい録音できるか知りたいときには	18
録音した演奏を聴いてみましょう	19
一方のトラックを再生しながら、	
もう一方のトラックに録音するには	20
バウンス機能	21
(二つのトラックの演奏データを一つにまとめるには)	
リピート再生機能	22
(曲のある区間内や、一曲通して繰り返し再生するには)	



活 用 編

演奏するうえでさまざまな役に立つ機能や、他の機器との接続方法や、MIDI機能などのC-303/505をより発展的に使うための説明をしています。

タッチコントロール機能	24
古典音律を使って	25
トランスポーズ(移調)機能	26
ピッチコントロール(音程の微調整)機能	27
他の機器との接続	28
MIDIを使って	29
MIDIモードの初期設定	30
MIDIチャンネル	30
ローカル・オン/オフ	30
プログラム・チェンジ	31
コントロール・チェンジ	33
ベロシティ・カーブ・セレクト	33
MIDIマルチ機能	34
外部MIDI機器との同期	35
MIDIデータ・ダンプ機能	35
MIDIインプリメンテーション	37
MIDIインプリメンテーションチャート	38

資 料 編

スタンドの組み立て方や、外形寸法や性能などについて説明しています。

スタンドの組み立て方	39
C-303用スタンド	39
C-505用スタンド	41
MIDI/TRANSCOPEスイッチの機能	43
故障とお思いになる前に	44
仕様	44

アフターサービス	巻末
----------	----

ご使用になるまえに

使用する場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所
- 温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- 砂やホコリの多い場所

電源について

- 電源コードのプラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込んでお使いください。お買い上げになった製品は国内仕様ですので、100V 以外の電源コンセントは絶対に接続しないでください。
- 電源のタコ足配線は、雑音が出たり音質が悪くなる原因となることがありますので、ご注意ください。

取り扱いはやさしく

- スイッチやスライダーつまみなどに必要以上の力を加えたりすると、故障の原因となりますので、取り扱いには十分にご注意ください。
- キーカバー上に必要以上の力を加えたり、乱暴に開閉しないでください。故障の原因となることがあります。

スタンドの取り扱い

本製品のスタンドは、長期間ご使用になりますとネジが緩む場合があります。使用中に揺れが大きく感じられたり、使用場所を移動する際には、『スタンドの組み立て方』を参照のうえネジを締め直してください。

異物混入のご注意

- 本体の上に、コップ・花びんなど液体の入ったものは絶対に置かないでください。本体に液体が入ると故障するばかりか火災・感電などの恐れもあります。
- 本体の内部には(鍵盤と鍵盤のすきまなどから)、ヘアピン・硬貨などの金属物が入らないようにご注意ください。

上記の場合は、本体の電源スイッチを OFF にし、電源コードをコンセントより抜いてから、最寄りの営業所、または販売店にご連絡ください。

お手入れ

外装のお手入れのときには、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジン、シンナー系の溶剤や、強燃性のポリッシャーなどは絶対に使用しないでください。

保証書の手続き

保証書は、購入時点での手続きが行なわれていない場合、無効となる場合があります。必ずお買い上げのお店で手続きを行なったうえで、大切に保管してください。

取扱説明書は大切に

この取扱説明書はお読みにになったあとも大切に保管してください。

バックアップバッテリーについて

C-303/505では、電源を切ったあともレコーダーのデータ、各音色のエフェクトやサラウンドの設定を保持するためにバックアップ用のバッテリーを装備しています。電源 ON 時に MIDI/TRANPOSE スイッチのランプが点滅しましたらバッテリーの電圧が低下していることを示しますので、最寄りのサービスセンターまたは販売店にお問い合わせのうえ、バッテリーを交換してください。

- MIDI/TRANPOSE スイッチを押すと点滅は解除されます。

特長

多彩な6種類の音色

コンサートグランドピアノをはじめ、ai(advanced intergrated) スクエアシンセシスシステムによる豊かな表現力を生むリアルで高品位な6種類の音色を内蔵しています。

最大同時に32音発音

最大同時発音数は32音(シングルモード時)。幅広い演奏表現に対応します。

エフェクト機能

小さな部屋で演奏している響きから、コンサートホールで演奏しているような響きまで、また音にうねりを与え広がりのある豊かな響きにするデジタルエフェクトを内蔵しています。

2音色を組み合わせた演奏

レイヤー、スプリットモードにより、2つの音色を自由に組み合わせて演奏することができます。

表現を豊かにするペダル効果

ダンパーペダルを踏んだときに、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴音を再現します。(レゾナンスシミュレーション)

メトロノーム機能

拍子、テンポ、音量を変えることができ、またアクセント音にベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

レコーダー機能

テープレコーダーを操作する感覚で演奏を録音・再生することができるレコーダー機能を内蔵しています。合計3個のデータを同時に重ねて演奏できるほか、繰り返し(リピート)再生することができます。

タッチコントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを3種類の中から選択できます。

古典音律

平均律の他に、2種類の音律(キルンベルガー、ヴェルクマイスター)により古典音楽等の再現も可能になります。

音程の調節


トランスポーズ機能により移調を、ピッチコントロール機能により音程の微調整をおこなうことができます。


MIDIの装備

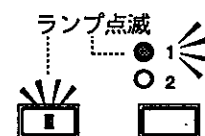
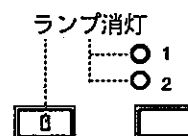
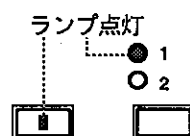
電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりをおこなう統一規格“MIDI”を装備しています。MIDIを使えば双方の音源を自由に鳴らせるほか、マルチ機能を使ってC-303/505の内蔵の音色を4つまで鳴らすことができます。

スイッチの表記について

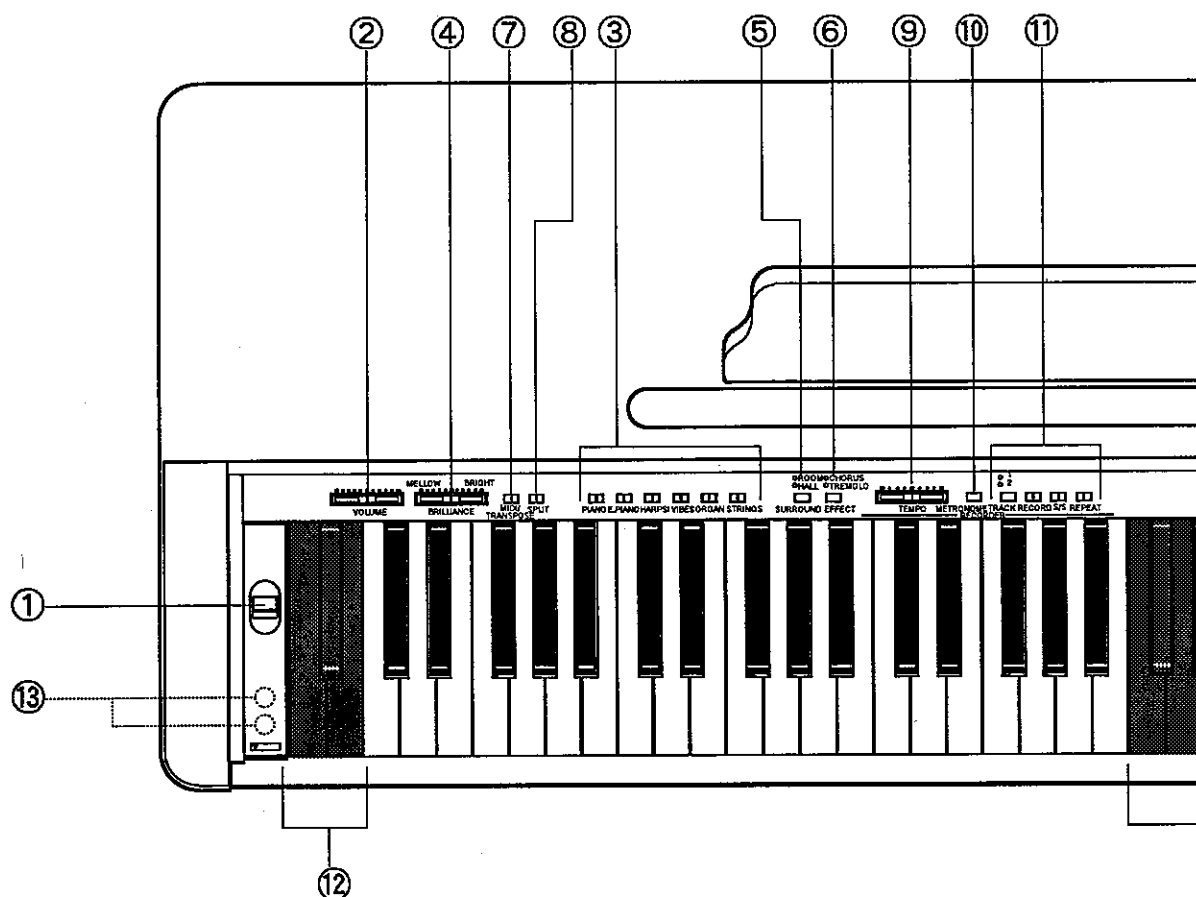
この取扱説明書では、スイッチ、ランプについて次のように表記しています。

 ... 点灯するスイッチ (セレクター)

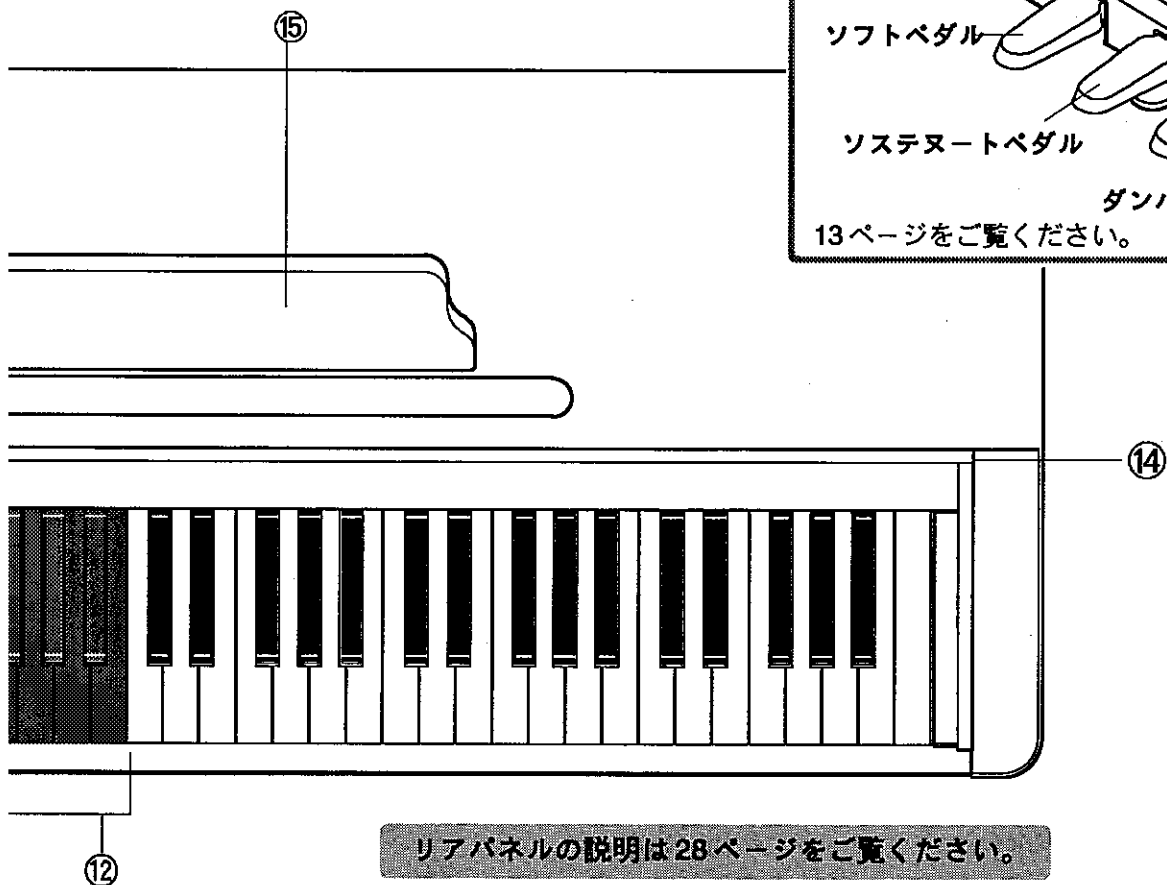
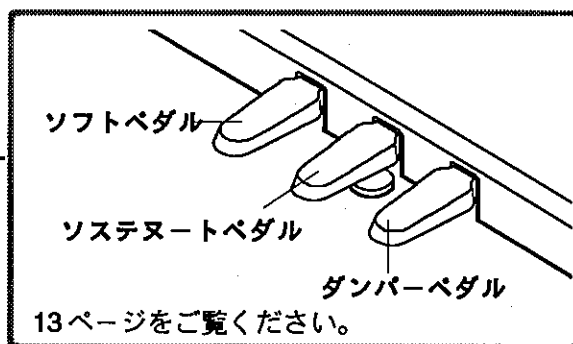
 ... 点灯しないスイッチ



各部の名称

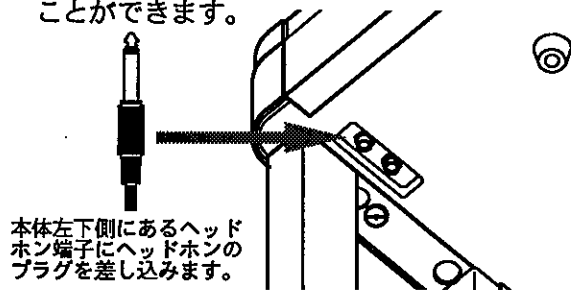


- ①. 電源スイッチ (7ページ)
C-303/505の電源をオン、オフするスイッチです。押すたびにオン、オフが切り替わります。
- ②. VOLUME (ボリューム) スライダー (7ページ)
音量を調節するスライダーです。
- ③. 音色セレクター
音色を選択するスイッチです (7ページ)。同時に2音色で演奏できるレイヤー、スプリットモードにすることもできます (10ページ)。
- ④. BRILLIANCE (ブリリアンス) スライダー (8ページ)
音の明るさを調節するスライダーです。
- ⑤. SURROUND (サラウンド) スイッチ (8ページ)
サラウンド効果を選択するスイッチです。
- ⑥. EFFECT (エフェクト) スイッチ (8ページ)
モジュレーション効果を選択するスイッチです。
- ⑦. MIDI/TRANPOSE (トランスポーズ) スイッチ
MIDIモードの設定 (30ページ) と、トランスポーズを設定するときに使います (26ページ)。また、この他さまざまな設定に使います (43ページ)。
- ⑧. SPLIT (スプリット) スイッチ (11ページ)
高音部、低音部を異なる音色で弾くためのスプリット機能設定時に使用します。
- ⑨. TEMPO (テンポ) スライダー (15ページ)
メトロノーム、レコーダーのテンポを調節します。
- ⑩. METRONOME (メトロノーム) スイッチ
メトロノームをスタート、ストップします。 (15ページ)
- ⑪. レコーダー操作部 (17ページ)
演奏を録音/再生します。
- ⑫. ピッチコントロール用鍵盤 (27ページ)



⑬. ヘッドホン端子 (本体下側にあります。)

ステレオ・ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンを接続すると、本体のスピーカーからは音が出ませんので、夜間でも自由な音量で演奏をお楽しみ頂けます。ヘッドホンは2つまで接続できますので二人で演奏をきくことができます。



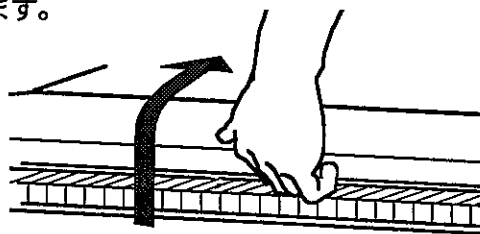
守りましょう、音のエチケット

楽しい音楽も、場所や時間によっては周囲の迷惑となることがあります。特に夜間には適度な音量を心がけ、またヘッドホンを使うなどして、周囲へのエチケットを心がけましょう。

●ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のため、大きな音量のまま長い時間きかないでください。

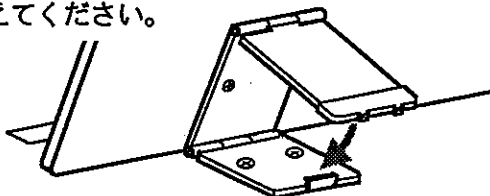
⑭. キーカバー

キーカバーを開閉するときは、ヘリの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに動かしてください。無理な力を加えたり、乱暴に開閉しますと、故障の原因になることがあります。



⑮. 譜面台

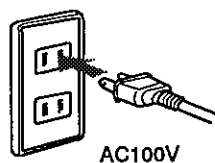
譜面立てを起こした後、裏面についている2つのストッパーを起こして倒れないように支えてください。



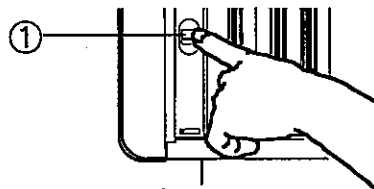
弾いてみましょう

電源を入れます — 電源スイッチ ① —

電源コードのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。



AC100V



電源を入れるとランプが点灯します。

音量を調節して、さまざまな音色やエフェクトを選んで弾いてみましょう！

音量を調節します — VOLUME スライダー ② —

スライダーを右("10")に動かすと音が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。"0"の位置では音が出ません。

このVOLUME スライダーは、本体のスピーカーの音量と、ヘッドホン端子、リアパネルのAUX OUT端子から出力される音量に作用します。

音色を指定します — 音色セレクター ③ —

音色セレクターを押して、弾きたい音色を選びます。

選んだ音色セレクターのランプが点灯します。

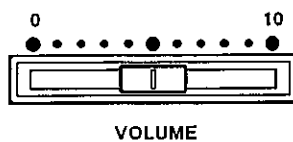
- PIANO** …… 明るく華やかに響くアコースティックピアノの音
- E.PIANO** …… 軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音
- HARPSI** …… クラシックな趣きのあるリアルなハーブシコードの音
- VIBES** …… まろやかなビブラフォンの音
- ORGAN** …… 荘厳なパイプ・オルガンの音
- STRINGS** …… バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

異なる2種類の音色を組み合わせる演奏することができます。

一つの鍵を弾くと、同時に二種類の音色が鳴るレイヤー・モードと、鍵盤の位置で別々の音色が鳴るスプリット・モードが選べます。

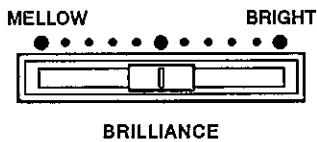
なお、スプリット・モード設定時には音色セレクターの音色の他にアコースティック・ベースの音色を低音側に設定することができます。

詳しくは10~12ページをご覧ください。



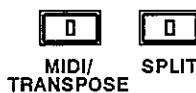
VOLUME

②



BRILLIANCE

④



MIDI/
TRANSPOSE

SPLIT



PIANO

E.PIANO

HARPSI

③

□■ 音の明るさを調節します — BRILLIANCE スライダー ④ —

スライダーを右 ("BRIGHT") に動かすと音が明るい感じに、左 ("MELLOW") に動かすとやわらかい感じになります。

□■ 音色にエフェクト (効果) を加えます

音に残響を与えます — SURROUND スイッチ ⑤ —

音色セレクターで選んだ音色に残響を付け加え、臨場感のあるサウンドにします。(サラウンド効果)

SURROUND スイッチを何度か押して、希望する効果のランプを点灯させます。押すたびに、OFF → ROOM → HALL → OFF … の順番で切り替わります。

ROOM ……………残響音の多い部屋のような響きが得られます。

HALL ……………コンサートホールのような響きが得られます。

OFF (ランプ消灯) ……サラウンド効果はかかりません。PIANO の音色のときはダンパーペダルを踏むと、アコースティックピアノの響きをシミュレートした共鳴効果をかけることができます。14 ページをご覧ください。

音に広がりを与えます — EFFECT スイッチ ⑥ —

音色セレクターで選んだ音色にうねりを与え、広がりのある豊かなサウンドにします。(モジュレーション効果)

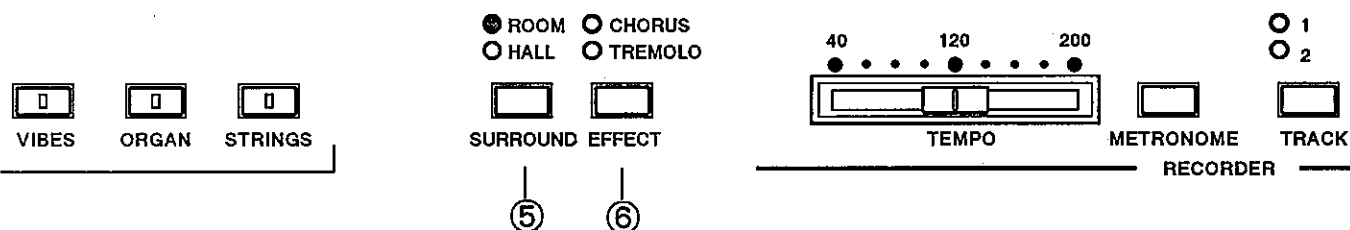
EFFECT スイッチを何度か押して、希望する効果のランプを点灯させます。押すたびに、OFF → CHORUS → TREMOLO → OFF … の順番で切り替わります。

CHORUS ……………音が広がるような効果が得られます。

TREMOLO ……………左右に音が行き交うような効果が得られます。

OFF (ランプ消灯) ……モジュレーション効果はかかりません。

- 音色セレクターで選択した音色ごとに効果を設定することができます。SURROUND、EFFECT スイッチで効果を設定すると、以後その音色を選択するたびに、自動的に同じ効果が選択されます。
- 設定された効果は、電源を切ってもそのまま記憶されます。

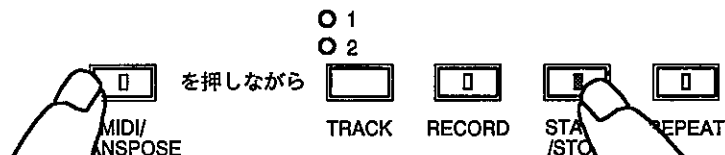


デモ演奏を聴いてみましょう

デモ演奏を6曲内蔵しています。これらを1曲ずつ、または全曲を通して聴くことができます。

■□ 1

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、START/STOPスイッチを押します。



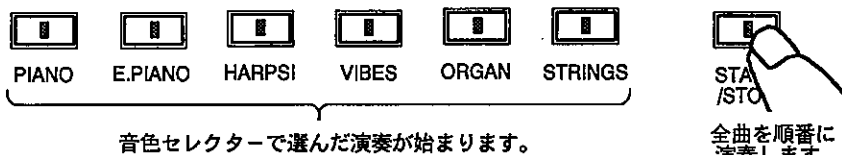
音色セレクターのランプが点灯してデモ曲の選択ができる状態になります。(デモ・セレクト・モード)

- エフェクトは、自動的にROOMが設定されます。
- このとき、音色セレクターで音色を選ぶことはできません。

□■ 2

1曲だけ聴く場合は、デモ演奏に対応する音色セレクターを押すと、指定した演奏が始まります。全曲を通して聴く場合は、再度START/STOPスイッチを押すと、全曲を順に演奏します。

演奏が終わると、デモ・セレクト・モードに戻ります。



音色セレクター	曲名
PIANO	ウェーバー/「舞踏への勧誘 作品65」より
E.PIANO	シューマン/子供の情景～トロイメライ
HARPSI	ショパン/ワルツ(遺作)ホ短調
VIBES	KORG オリジナル1 (ピアノ+ストリングス)
ORGAN	KORG オリジナル2 (ハーブシコード+ストリングス)
STRINGS	KORG オリジナル3 (オルガン+ストリングス)

- デモ演奏時、メトロノーム、テンポの調節、録音、およびバウンスの機能は使えません。

演奏を終了するには

デモ演奏中の場合は、START/STOPスイッチを押すとデモの演奏が止まり、デモ演奏のモードから抜けます。

演奏が始まっていない(デモ・セレクト・モード)ときは、START/STOPスイッチを2度押すとデモ演奏のモードから抜けます。

繰り返しデモ演奏を聴くには

REPEATスイッチを押して、前述(■□ 1、□■ 2)の方法でデモ演奏をスタートすると繰り返し演奏します。

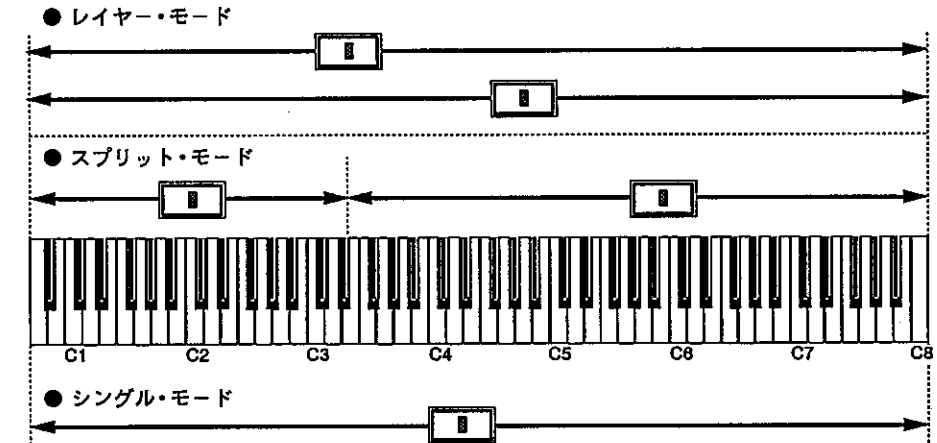
1曲を選択して演奏させると1曲だけのリピートを、全曲を通して演奏させると全曲のリピート演奏が行なわれます。

- デモ演奏を開始した後、REPEATスイッチを押しても同じように繰り返し演奏させることができます。
- リピート区間の設定はできません。

異なる2種類の音色を組み合わせます

異なる2種類の音色を組み合わせて演奏することができます。

一つの鍵を弾くと、同時に二つの音色が鳴るレイヤー・モードと、88の全鍵をある位置から「高音側」と「低音側」に分けてそれぞれの音色で鳴るスプリット・モードが選べます。



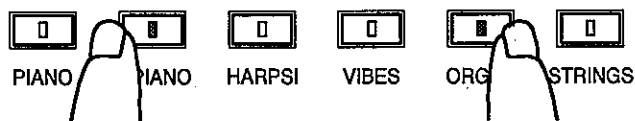
● 全鍵にわたって一つの音色だけで鳴る状態を、シングル・モードといいます。

□■ レイヤー・モード (一つの鍵から同時に異なる2種類の音色を出す)

レイヤーモード
の設定

組み合わせたい2つの音色セレクターを同時に押します。

同時発音数は16音になります。選んだ2つの音色セレクターのランプが点灯します。

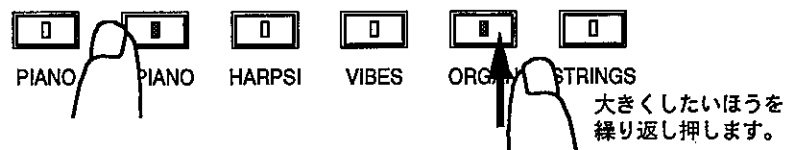


設定の解除

シングル・モード (音色セレクターを一つだけ押します)、またはスプリット・モードに移ると、レイヤー・モードは解除されます。

二つの音色の
音量バランスを
変える

音量を小さくしたいほうの音色セレクターを押えたまま、音量を大きくしたいほうの音色セレクターを繰り返し押します。



繰り返し押しているほうの音色の音量が、徐々に大きくなります。

● ボリューム・バランスは、レイヤー・モードを解除したあとでも記憶されています。

□■ スプリット・モード (高音鍵と低音鍵とで異なった音色を出す)

スプリットモードの
設定



シングル・モードの状態、鍵盤の高音側で鳴らしたい音色の音色セクターを押します。



SPLITスイッチを押します。



SPLITスイッチのランプが点灯し、低音側の鍵盤はアコースティック・ベースの音色で鳴るようになります。

音色の変更

- 高音側の音色を変更する場合には、高音側で弾きたい音色の音色セクターを一つだけ押します。
- 低音側の音色を変更する場合には、スプリット・モードの状態、高音側で弾きたい音色の音色セクターを押しながら、低音側で弾きたい音色の音色セクターを押します。
- 高音側と低音側の音色を入れ替える場合には、一度高音側の音色を変えて、設定し直してください。

二つの音色の音量の
バランスを変える

音量を小さくしたいほうの音色セクターを押えたまま、音量を大きくしたいほうの音色セクターを繰り返し押します。

繰り返し押ししているほうの音色の音量が、徐々に大きくなります。

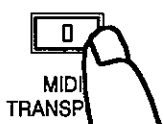
- ボリューム・バランスは、スプリット・モードを解除したあとでも記憶されます。
- 低音側がアコースティック・ベースの音色のときは、音量バランスの変更はできません。

オクターブの変更

高音側、低音側のそれぞれの音色の音域を±3オクターブまで変えることができます。

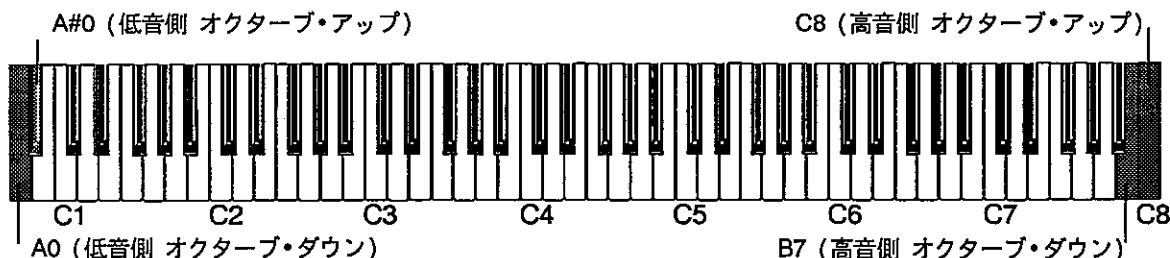
MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、それぞれの鍵を押すと次のように音域が変化します。

鍵を押すごとにそれぞれ1オクターブずつアップ、ダウンします。



を押しながら

- A0.....(低音側 オクターブ・ダウン)
- A#0.....(低音側 オクターブ・アップ)
- B7.....(高音側 オクターブ・ダウン)
- C8.....(高音側 オクターブ・アップ)



- 低音側の音色をオクターブ・ダウンしたり、高音側の音色をオクターブ・アップした場合には、低音側は下のオクターブが、高音側は上のオクターブがオクターブ・ダウン、アップした数だけ繰り返すように設定されます。
- MIDIに送信されるノート・ナンバーは、オクターブ・アップ、ダウンしても変更されません。
- スプリット・モードを解除すると音域を変更していない状態に戻ります。
- 低音側がアコースティックベースのときオクターブ・アップ、ダウンの変更はできません。

二つの音域の別れる位置を変えるには

■ □ 1

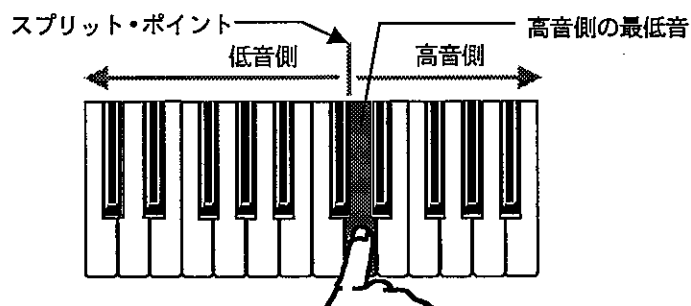
MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、SPLIT スイッチを押します。



□ ■ 2

両方のスイッチを押したまま、高音側の最低音として設定したい音の鍵を押します。

押した鍵よりも下の（低い）鍵盤が「低音側」の範囲として設定され、押した鍵を含めて上の（高い）鍵盤が「高音側」の範囲として設定されます。



- 低音側がアコースティックベースのとき、スプリットポイントは変更できません。
- スプリット・ポイントは、スプリット・モードを解除すると最初の位置 (E3) に戻ります。

ペダル効果

ダンパーペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。PIANO(ピアノ)の音色ではサラウンドの設定がオフのとき、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴音を再現することができます。(次ページ参照)

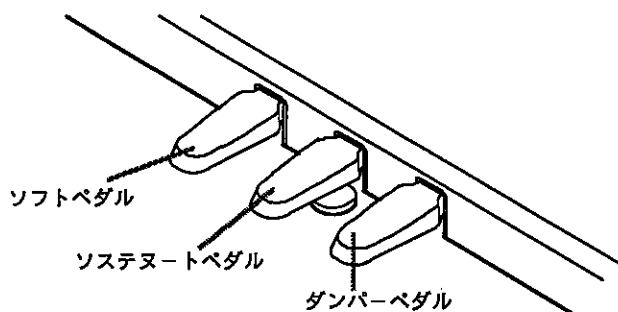
ソフトペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。

ソステヌートペダル

任意の音に対してのみ、ダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間は、その音だけが長く伸びます。

ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音にたいしては、ソステヌート効果はかかりません。

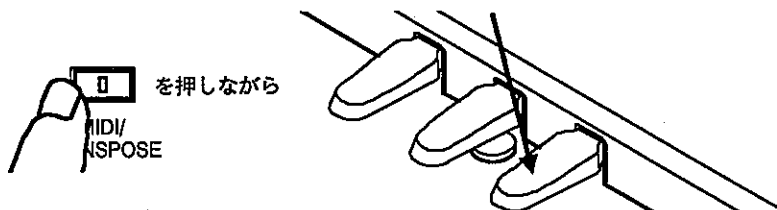


ダンパーペダルの
共鳴効果の選択

■□ 1

PIANO(ピアノ)の音色のとき、ダンパーペダルを踏んだときにかかる共鳴音の長さが選択できます。(レゾナンスシミュレーション)

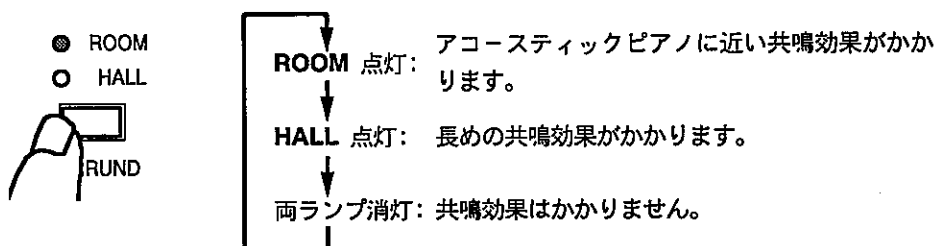
MIDI/TRANSPOSE スイッチを押しながらダンパーペダルを踏みます。



ダンパーペダルを踏みます。

□■ 2

■□ 1 の状態で、SURROUND スイッチを押すたびに、次のように設定が切り替わります。



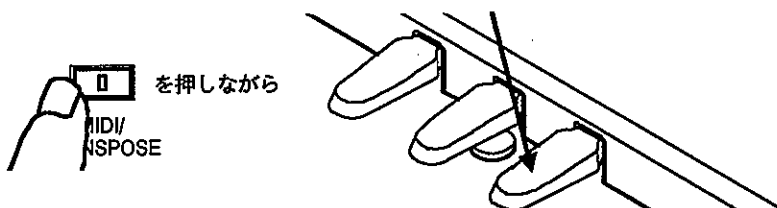
● サラウンドが設定されているとき、またレイヤー、スプリットモードが設定されているときは、この効果はかかりません。

レイヤーおよび
スプリットにおける
ペダルの設定

レイヤー・モードおよびスプリット・モードにおいて、ペダルの効果を二つの音色のどちらにかけるかを設定します。

MIDI/TRANSPOSE スイッチを押しながらダンパーペダルを踏むたびに、ペダルの効果がかかる音色セレクターのランプが点灯します。

ダンパーペダルを踏むたびに、
一方の音色セレクター→もう一方の音色セレクター→両方の音色セレクター→
一方の音色セレクター…の順番で効果がかかります。



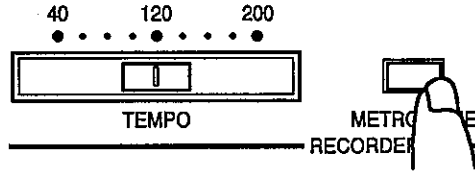
ダンパーペダルを踏みます。

メトロノーム機能

テンポや拍子を音で知らせるメトロノーム機能です。

メトロノームの
スタート/ストップ

METRONOMEスイッチを押すとスタートし、もう一度METRONOMEスイッチを押すとストップします。



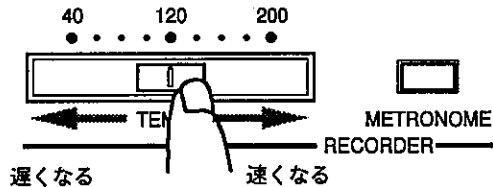
音量の調節

METRONOMEスイッチを押してメトロノームをスタートさせた状態で、MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、METRONOMEのスイッチを押します。音量の調節は10段階です。押すたびにメトロノームの音量が大きくなります。最大まで大きくなると最小の音量に戻り、また大きくなっていきます。

テンポの調節

メトロノームのテンポは、テンポスライダーで調節します。

♩ = 40~200の間で調節できます。



● テンポスライダーはこの他、レコーダーのテンポの調節をします。

メトロノームの拍子
の設定

METRONOMEスイッチを押してメトロノームをスタートさせた状態で、MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、設定したい拍子に対応する音色セクターを押します。



押された音色セクターのランプが点灯して、選択された拍子の最初にアクセント音が入ります。

拍子設定の解除

METRONOMEスイッチを押してメトロノームをスタートさせた状態で、MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、ランプの点灯している音色セクターを押します。

- 電源を入れた直後は拍子設定のない（アクセントのない）状態となります。
- メトロノームを使用すると最大発音数は31音になります。

アクセント音の選択

拍子を設定したときのアクセント音としてベルの音を鳴らすか鳴らさないかを選択できます。

METRONOME スイッチを押してメトロノームをスタートさせた状態で、MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、音色セクターの ORGAN または STRINGS を押します。



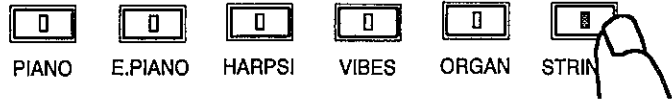
- ベル音が鳴るように設定をすると MIDI マルチの受信チャンネルは1チャンネル減って3チャンネルになります。
- レコーダーに録音した音色がバウンスしたものを含めて全てレイヤーかスプリット・モードで、パネルの設定もレイヤーもしくはスプリット・モードの場合に、レコーダーをスタートさせると、メトロノームのアクセント音はベルの音が鳴る設定になっていてもベルの音が鳴らない状態になります。
この場合、レコーダーの再生をストップするか、パネルの設定をシングル・モードにするとベル音が鳴るようになります。

演奏を録音(レコーディング)してみましょう

■□ 1

音色セクターで音色を選びます。

録音している最中に音色を切り替えることはできません。再生時には、ここで選んだ音色が自動的に選ばれます。



□■ 2

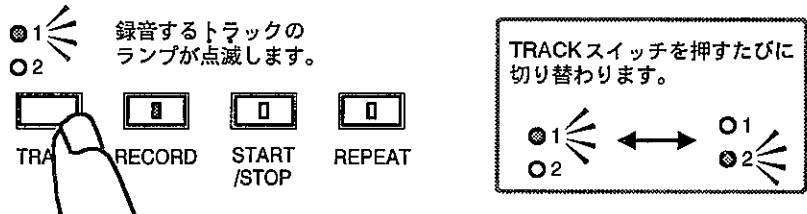
RECORDスイッチを押します。



RECORDスイッチをオンにすると、RECORDスイッチのランプが点灯し、トラック1のランプが点滅します。

■□ 3

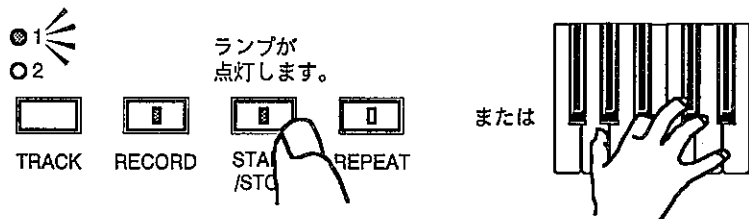
録音するトラックをTRACKスイッチで選びます。



TRACKスイッチを押すたびにトラック1⇔トラック2が交互に切り替わります。選ばれたトラックのランプが点滅し、そのトラックが選ばれたことを示します。2つのトラックを同時に録音することはできません。

□■ 4

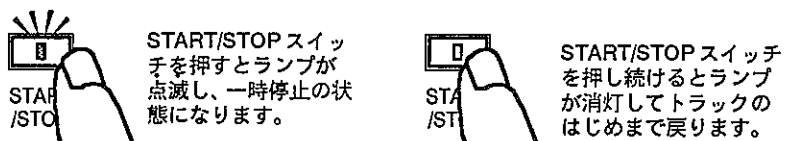
START/STOPスイッチを押すか、または鍵盤を押すと録音が始まります。



録音している間は、START/STOPスイッチのランプが点灯しています。

■□ 5

START/STOPスイッチを押すと、録音が停止します。



停止位置はSTART/STOPスイッチを押している時間で異なります。

1秒以内の場合はSTART/STOPスイッチを押した位置で停止し、ランプは点滅します。1秒以上押し続けるとトラックの最初まで戻って停止し、ランプは消灯します。

曲を最初から録音し直すには

START/STOPスイッチを押し続けて（1秒以上）最初の位置まで戻し、**■□ 1**からの手順にそって、録音をし直してください。

曲の最後に演奏の続きを録音するには

■□ 5の一時停止の状態、RECORDスイッチを押し録音するか（**□■ 4**）、録音した演奏を最後まで再生してから（**■□ 5**の一時停止の状態になる）、RECORDスイッチを押して録音します。

- 音色セレクターで新しい音色を選んで曲の続きを録音しても、再生時に曲の途中で自動的に音色は切り替わらず、最初の録音時に選択した音色で最後まで再生されます。
- 再生している曲の途中でSTART/STOPスイッチを押して、一時停止した位置から録音に切り替えた場合、一時停止した位置から正しく録音が始まらない場合があります。

START/STOPスイッチのランプの点灯、点滅と消灯の違いは？

点灯しているときは、演奏が録音または再生中です。

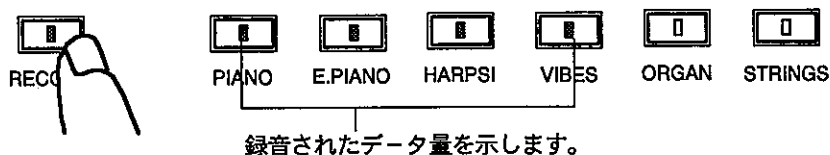
点滅しているときは、演奏の途中または最後の位置で停止しています。

消灯しているときは、演奏の最初で停止しています。

□■ あとどのくらい録音できるか知りたいときには

RECORDスイッチを押し続けると、音色セレクターのランプが点灯して、あとどのくらい録音できるのか知ることができます。

録音した演奏データの量を音色セレクターのランプの点灯する数で表示します。録音した演奏データが増えるにつれて、ランプの点灯する数が多くなり、録音できる領域が少なくなったことを確認できます。

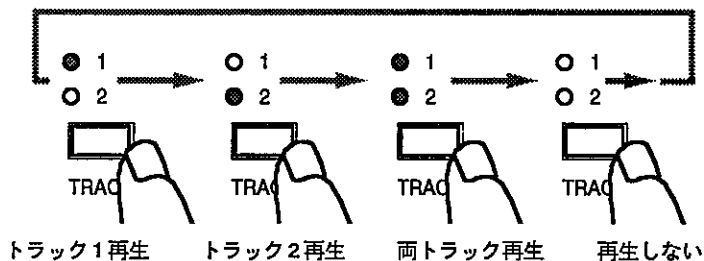


- 録音できる領域が、メモリーの残り10パーセント以下になると、RECORDスイッチのランプが点滅します。残しておきたい演奏データは市販のMIDIデータ・ファイラーを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします。詳しくは35ページをご覧ください。

録音した演奏を聴いてみましょう

■ □ 1

TRACKスイッチを押して、再生するトラックを選びます。



再生するトラックのランプが点灯します。TRACKスイッチを押すたびにトラック1→トラック2→両方のトラック→どちらも選ばれない→トラック1の順番で切り替わります。

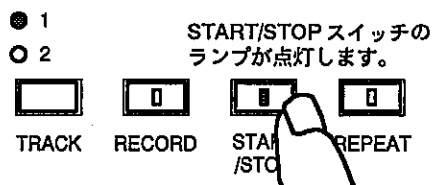
□ ■ 2

演奏の開始位置を確認します。

START/STOPスイッチのランプが点滅している場合は、曲の位置が途中か最後になっていますので、演奏を最初から再生する場合はSTART/STOPスイッチを1秒以上押してランプを消灯させてください。

■ □ 3

START/STOPスイッチを押すと、演奏が始まります。

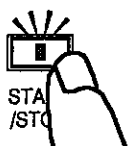


再生されている間はSTART/STOPスイッチのランプが点灯しています。

- TEMPOスライダーで、再生するテンポを変えることができます。TEMPOスライダーを、左に動かすと遅く、右に動かすと速く再生します。曲のテンポを変えてもピッチ（音程）は変化しません。

□ ■ 4

START/STOPスイッチを押すと、演奏が停止します。



START/STOPスイッチを押すとランプが点滅し、一時停止の状態になります。



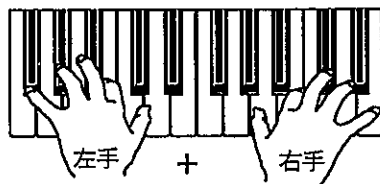
START/STOPスイッチを押し続けるとランプが消灯してトラックのはじめまで戻ります。

トラックのデータを全て再生し終ると、START/STOPスイッチのランプが点滅します。

- レコーダーで再生されている演奏データは、MIDI OUTからは出力されません。

一方のトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音するには

あらかじめ一方のトラックに録音しておいた演奏を聴きながら、それに合わせて別の演奏をもう一方のトラックに録音することができます。右手と左手を片手ずつ別々に録音したり、連弾や二重奏などにすることができます。

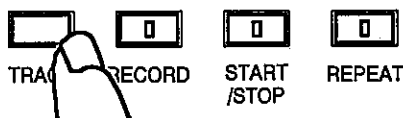


二重奏

■ □ 1

TRACKスイッチを押して、すでに録音済のトラックを再生用トラックとして選びます。

- 1 再生するトラックを点
- 2 灯させます。

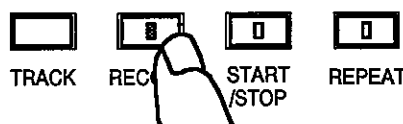


トラック1を再生する場合

□ ■ 2

RECORDスイッチを押します。

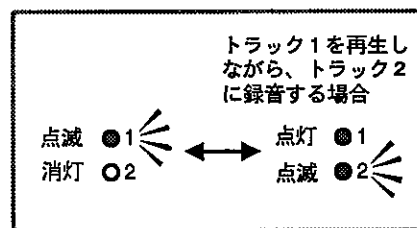
- 1 RECORDスイッチのランプが点灯し、トラックのランプが点滅します。
- 2



■ □ 3

TRACKスイッチを押して、録音するトラックを選びます。

- 1 録音するトラックのランプが点灯します。
- 2



TRACKスイッチを押すたびに、右上図のように切り替わります。再生トラックを、録音トラックにして録音を開始すると前の演奏は消えて、新たに演奏したデータが保存されます。

□ ■ 4

START/STOPスイッチのランプで曲の位置を確認して、START/STOPスイッチ、または鍵盤を押します。

再生される演奏を聴きながら、録音したいパートを演奏してください。

録音している間は、START/STOPスイッチのランプが点灯しています。

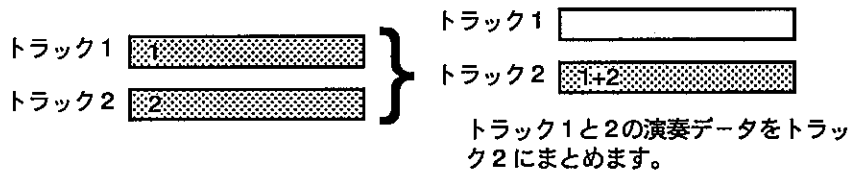
■ □ 5

START/STOPスイッチを押すと、録音・再生が同時に停止します。

バウンス機能

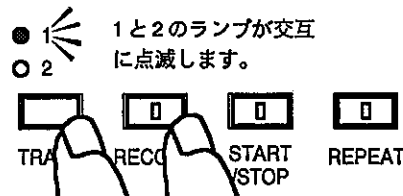
(二つのトラックの演奏データを一つにまとめるには)

二つのトラックの演奏データを一つのトラックにまとめます。この操作をバウンスといいます。データを一つのトラックにまとめるとトラック1は空になりますので、新たにトラック1に録音することによって合計3個のデータの演奏を重ねることができます。



■ □ 1

RECORDスイッチを押しながら、TRACKスイッチを押します。



□ ■ 2

START/STOPスイッチを押すとバウンスが開始します。



■ □ 3

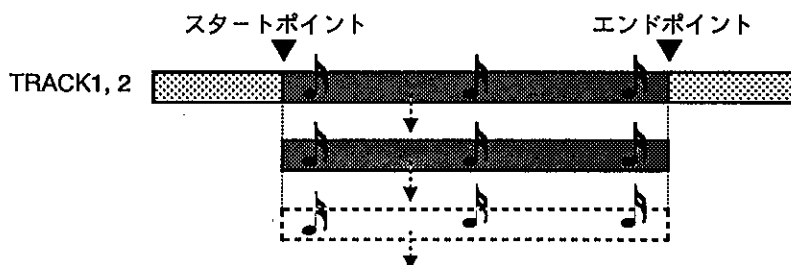
バウンスが終了すると、点滅が止まりトラック2のランプが点灯します。トラック1と2の演奏データはトラック2にまとめられて、トラック1の演奏データは空になります。

- バウンス操作は1回だけ行なえます。新たにトラック2に録音するなどしてバウンスデータを消すと、再びバウンスが可能となります。
- バウンスして一つにまとめた演奏データを再生途中で一時停止して、録音に切り替えることはできません。曲の最後からなら可能です。

リピート再生機能

(曲のある区間内や、一曲通して繰り返し再生するには)

録音した曲のある区間内、または曲全体を繰り返し再生します。演奏のむずかしい部分の練習や、一曲を続けて何回も聴いたりすることができます。



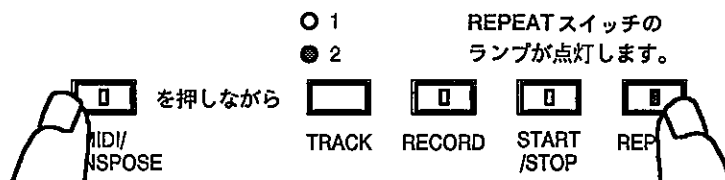
リピート区間の設定

■ □ 1

リピート再生するトラックをTRACKスイッチで選び、START/STOPスイッチを押して演奏を再生します。

□ ■ 2

再生する演奏を聴きながらリピートスタートさせたいところで、MIDI/TRANSEPOSEを押しながら、REPEATスイッチを押します。



REPEATスイッチのランプが点灯し、スタートポイントが設定されます。

■ □ 3

再生を続けていき、リピートエンドさせたいところで、もう一度MIDI/TRANSEPOSEを押しながら、REPEATスイッチを押します。

REPEATスイッチのランプが消灯し、エンドポイントが設定されます。

エンドポイント設定後、自動的に指定区間内をリピート再生を始めます。

- トラックの最初から最後までを繰り返し再生するには、リピート区間を設定する必要はありません。設定してある場合は設定を解除してください。
- リピート区間の設定はトラック1とトラック2のそれぞれに1区間ずつ設定できます。
- 録音をし直したり、バウンスをおこなうとそれ以前に設定しておいたリピート区間は解除されます。
- 設定したリピート区間は電源を切っても記憶されています。

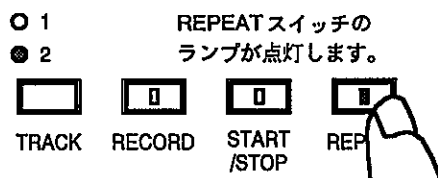
リピート再生の方法

■□ 1

リピート演奏させたいトラックをTRACKスイッチを押して選びます。

□■ 2

REPEATスイッチを押します。(ランプ点灯)



■□ 3

START/STOPスイッチを押すと再生が始まり、設定したリピート区間に来ると区間内を繰り返し再生します。

リピート区間を設定している場合はその区間を、設定していない場合は録音したトラックの最初から最後までを繰り返し再生します。

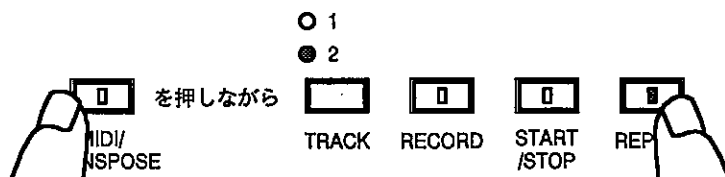
リピート区間の解除

■□ 1

START/STOPスイッチを押して(1秒以上)、ランプを消灯させます。

□■ 2

MIDI/TRANSPPOSEスイッチを押しながら、REPEATスイッチを押します。(REPEATスイッチのランプ点灯)



■□ 3

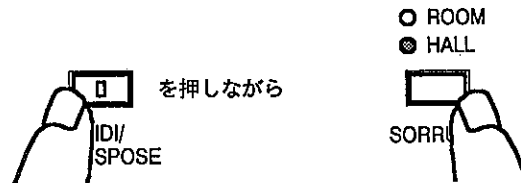
続けてもう一度、MIDI/TRANSPPOSEスイッチを押しながらREPEATスイッチを押すと設定が解除されます。(REPEATスイッチのランプ消灯)

タッチコントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを、3段階に切り替えることができます。

タッチコントロール
の選択

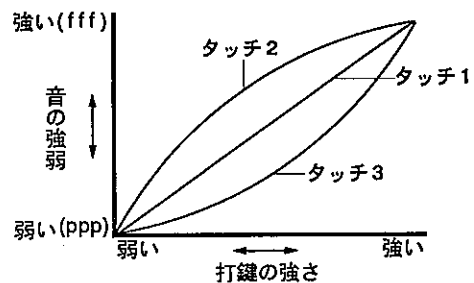
MIDI/TRANSCOPE スイッチを押しながら、SURROUND スイッチを押すたびに、タッチ1→タッチ2→タッチ3→タッチ1…の順番で設定が切り替わります。



タッチ1 …… 両ランプ消灯：通常のピアノタッチです。

タッチ2 …… ROOM点灯：弱く弾いても強音が出せるタッチです。(軽いタッチ)

タッチ3 …… HALL点灯：強く弾かないと強音が出せないタッチです。(重いタッチ)



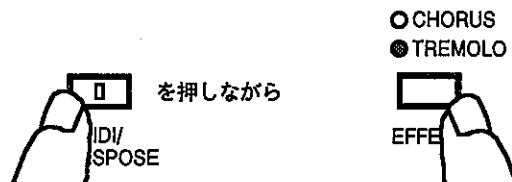
● 電源を入れた直後は、自動的にタッチ1に設定されます。

古典調律を使って

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガー (Kirnberger)、ヴェルクマイスター (Werckmeister) という2種類の古典音律と、今日鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

音律の選択

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながら、EFFECTスイッチを押すたびに、平均律→キルンベルガー→ヴェルクマイスター→平均律…の順番で音律が切り替わります。



- 平均律……………両ランプ消灯
- キルンベルガー……………CHORUSのランプ点灯
- ヴェルクマイスター……………TREMLOのランプ点灯

- 電源を入れた直後は、自動的に平均律に選択されます。
- ここで設定された音律は、電源を切るまでは変更されません。

キルンベルガー

18世紀初めにヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢスケールです。これは主にハーブシコードのチューニングに使用されています。

ヴェルクマイスター

ドイツ人オルガニスト/音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによるヴェルクマイスターⅢスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。

平均律

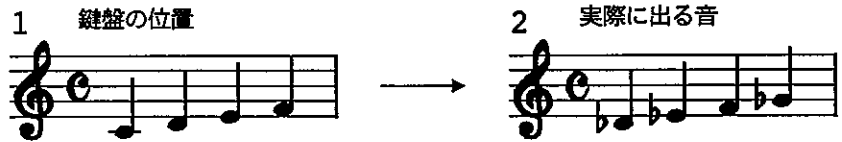
今日の鍵盤楽器のほとんど全てがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列していますので、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

- PIANO (ピアノ) の音色では、うねりを押さえ、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高いピッチに調整されています。(ストレッチ・チューニング)

トランスポーズ (移調) 機能

トランスポーズ機能とは、弾く鍵盤の位置を変えずにキー (調) を変える機能です。伴奏をするとき歌う人の声にあわせて移調するときなどに使います。11半音の範囲でずらすことができます。

たとえば1半音上げた場合、次の楽譜1を弾くと、楽譜2のように鳴ります。



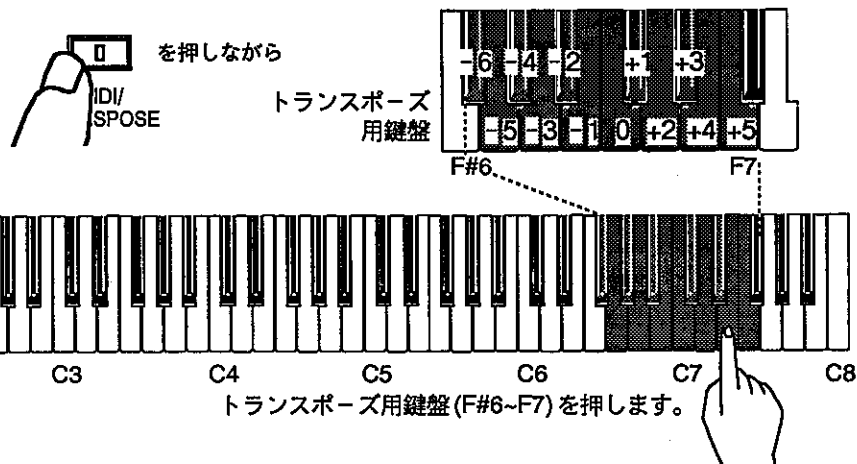
トランスポーズ
の設定

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながら、F#6~F7のいずれかの鍵盤を押します。押えた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

F7の鍵盤..... + 5半音。C7の鍵盤の位置でF7の音が鳴ります。

C7の鍵盤..... ± 0。標準の状態です。

F#6の鍵盤..... - 6半音。C7の鍵盤の位置でF#6の音が鳴ります。



- C7以外の鍵を押えた場合には、MIDI/TRANSCOPEスイッチのランプが点灯して、トランスポーズ状態になっていることを示します。

例：曲の調子を半音上げて演奏するには

C7の鍵を押さえたときにC#7の音が鳴るようにします。MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながら、C#7の鍵盤を押します。

例：キーがB♭の曲をGの指使いに直して演奏するには

B♭の音は、Gの音から見て短3度の(3半音高い)音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD#7の音が出るようにします。

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながら、D#7の鍵盤を押します。

設定の解除

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押して、トランスポーズ用鍵盤は押さずにそのままスイッチから手を離します。

MIDI/TRANSCOPEスイッチのランプが消えて、鍵盤は元の調に戻ります。

- トランスポーズの設定は、本体の電源を切ると自動的に解除されます。

ピッチコントロール (音程の微調整) 機能

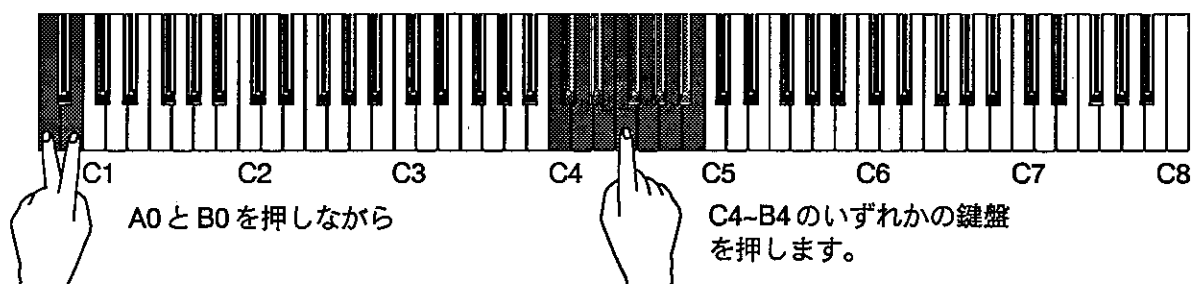
ピッチコントロールとは、ピッチ (音程) の微調整を行なう機能です。他の楽器とアンサンブルを楽しむ場合などに、楽器間の微妙な音程の違いを修正するときに使用します。

±50セント (1セントは半音の100分の1) までずらすことができます。変更したチューニングは、本体の電源を切ると自動的に元に戻ります。(A4 = 440Hz)

ピッチを上げるには

A0とB0の鍵を押しながら、C4からB4までの間の、いずれか一つの鍵盤を押します。

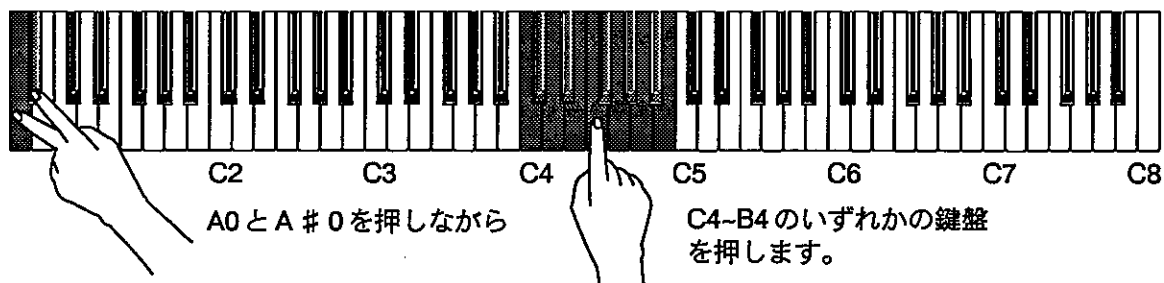
いずれの鍵でも、一回押すたびに約1セントずつピッチが高くなります。お望みのピッチになるまで繰り返し押してください。



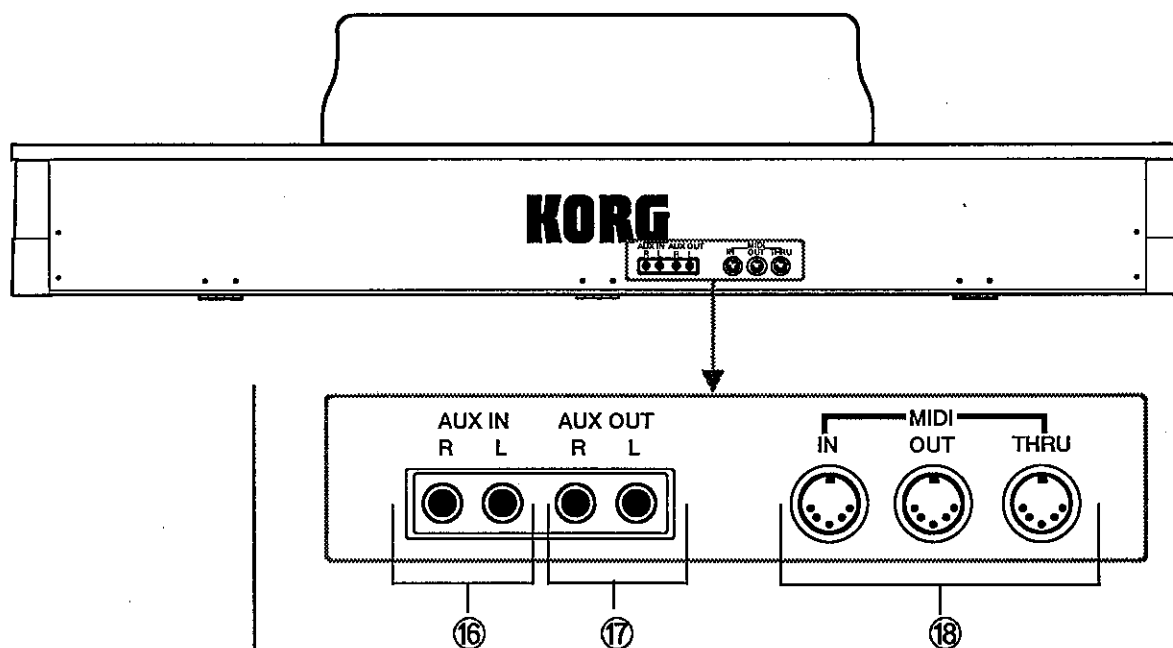
ピッチを下げるには

A0とA#0の鍵を押しながら、C4からB4までの間の、いずれか一つの鍵盤を押します。

いずれの鍵でも、一回押すたびに約1セントずつピッチが低くなります。お望みのピッチになるまで繰り返し押してください。



他の機器との接続



⑯. AUX IN 端子 (L/R)

シンセサイザーなど他の楽器や機器のアウトプット端子と接続して、本体のスピーカーから音を出すための端子です。音量は、接続した機器のボリュームで調節してください。

⑰. AUX OUT 端子 (L/R)

オーディオ機器などのインプット端子と接続して、より大きな音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するとき使用する端子です。音量は、本機のボリュームで調節してください。

⑱. MIDI 端子 (IN/OUT/THRU)

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどのMIDI機器と接続して、情報を交換するための端子です。詳しくは次ページの『MIDIを使って』をご覧ください。

MIDI を使って

* C-303/505 だけでご使用になる方は、この章をお読みにする必要はありません。

MIDI (ミディ) とは?

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子機器やコンピュータの間で演奏に関するさまざまな情報をやりとりする世界共通の規格です。

どんなことができる
のでしょうか?

C-303/505 を演奏することによって、他の MIDI を備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えや、ダンパーペダルなどのさまざまな効果もいっしょにコントロールすることができます。同様に他の MIDI キーボードやシーケンサー(自動演奏装置)から C-303/505 をコントロールすることができます。また、C-303/505 のレコーダーに録音した演奏情報をデータ・ファイラー(外部記憶装置)に保管しておき、聴きたいときに C-303/505 のレコーダーのなかに呼び出すことができます。この他にも、さまざまな使い方があります。

接続の方法

MIDI 情報をやり取りするには、専用の MIDI ケーブルを使います。このケーブルをやり取りする MIDI 機器の MIDI 端子に接続します。この MIDI 端子は 3 種類あり、C-303/505 には本体の後ろ側にあります。

MIDI IN 端子

MIDI 情報を受け取ります。他の MIDI キーボードやシーケンサーなどを使って、C-303/505 の音を鳴らすとき、この端子に MIDI ケーブルを接続し、もう一方の情報を送る側の MIDI 機器の MIDI OUT 端子に接続します。

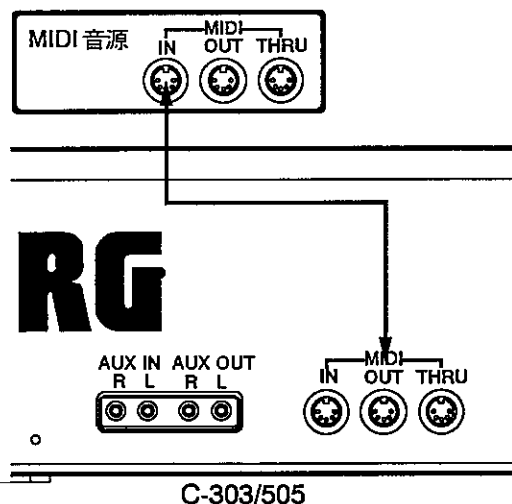
MIDI OUT 端子

MIDI 情報を送り出します。C-303/505 を演奏することによって、他の MIDI キーボードの音を鳴らしたり、シーケンサーに記憶するときに、この端子に MIDI ケーブルを接続し、もう一方の情報を受ける側の MIDI 機器の MIDI IN 端子に接続します。

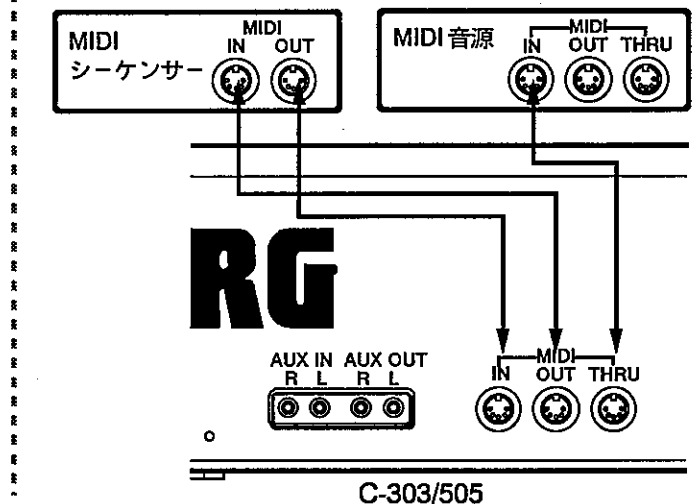
MIDI THRU 端子

本体の MIDI IN から入ってきた MIDI 情報をそのまま外へ送り出します。

C-303/505 と MIDI 音源を
接続する場合



C-303/505 と MIDI シーケンサーと MIDI 音源を
接続する場合



□■ MIDIモードの初期設定

電源を入れた直後は、MIDIに関するモードは、自動的に右のように設定されます。

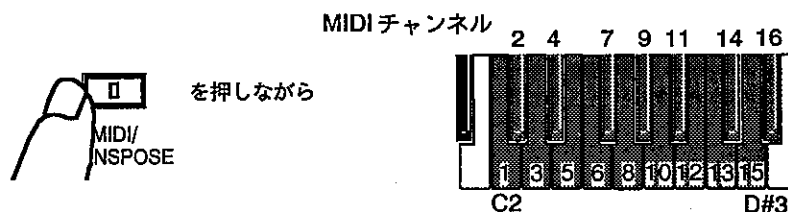
MIDIチャンネル	1
ローカル・オン/オフ	オン
プログラムチェンジ	イェール
コントロールチェンジ	イェール

□■ MIDIチャンネル

MIDIで情報をやり取りするには、送信する側と受信する側のMIDIチャンネルを合わせる必要があります。必要なチャンネルの演奏情報だけを受け取って、音を鳴らしたり音色を切り替えます。MIDIチャンネルは1~16で設定できます。

MIDIチャンネル
の設定

MIDI/TRANSCOPE スイッチを押しながら、MIDIチャンネル設定用の鍵盤(C2~D#3)のなかから、設定したいチャンネル番号に対応した鍵を押します。



● 電源を入れた直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。

□■ ローカル・オン/オフ

鍵盤付きのMIDI機器で鍵盤から音源への情報の伝達を切り離すかどうかを設定します。ローカル・オンのときは鍵盤を弾くと音が鳴りますが、ローカル・オフのときは音源部と切り離され、鍵盤を弾いても本体からは音が鳴らなくなります。MIDI OUTからは鍵盤の情報がそのまま出力されますのでMIDI INに接続した外部の音源だけが鳴ります。

C-303/505本体を鳴らさずMIDIで接続している外部の音源を鳴らすとき、またシーケンサーがエコー・バック（シーケンサーが受信したデータを送り返す動作）を行なうとき戻ってきた情報で2重に鳴るのを防ぐときにローカル・オフにします。

● 電源を入れた直後は、自動的にローカル・オンに設定されています。

ローカル・オン
/オフの設定

MIDI/TRANSCOPE スイッチを押しながら、PIANOの音色セレクターを押すたびに、オン/オフが切り替わります。



ローカル・オン……………PIANOの音色セレクターのランプが消灯します。



ローカル・オフ……………PIANOの音色セレクターのランプが点灯します。

□■ プログラム・チェンジ

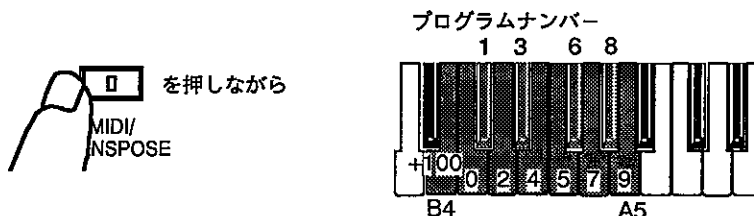
プログラム・チェンジの送信

◆ 鍵盤による送信

MIDIチャンネルごとに音色指定を行なう情報です。

次のようにMIDIのプログラムナンバーを接続しているMIDI機器に送信します。

鍵盤を使って0から127までのMIDIプログラムナンバーを送信します。



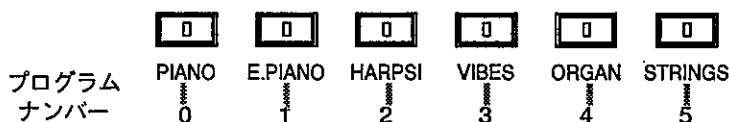
MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、

プログラムナンバー0	<input type="text" value="0"/> (C5) → <input type="text" value="0"/> (C5)
プログラムナンバー1	<input type="text" value="0"/> (C5) → <input type="text" value="1"/> (C#5)
⋮	⋮
プログラムナンバー99	<input type="text" value="9"/> (A5) → <input type="text" value="9"/> (A5)
プログラムナンバー100	<input type="text" value="+100"/> (B4) → <input type="text" value="0"/> (C5) → <input type="text" value="0"/> (C5)
⋮	⋮
プログラムナンバー127	<input type="text" value="+100"/> (B4) → <input type="text" value="2"/> (D5) → <input type="text" value="7"/> (G5)

という順序で、鍵盤を押します。

◆ 音色セレクターによる送信

音色セレクターを押すと0-5までのMIDIプログラムナンバーを送信します。



プログラム・チェンジ・キャンセル

プログラム・チェンジの情報を送受信させないときはプログラム・チェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルに設定します。

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、E.PIANOの音色セレクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。



キャンセル.....音色セレクターのランプが点灯します。
 ↑ ↓
 イネーブル.....音色セレクターのランプが消灯します。

- 鍵盤を使ってプログラム・チェンジを行う場合、プログラムナンバーは、プログラム・チェンジ・キャンセルのオン/オフに関係なく送信されます。
- 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。

プログラム・チェンジ
の受信

外部からプログラム・チェンジを受信すると、次のように本体の音色が切り替わります。

プログラムナンバー	音色	プログラムナンバー	音色
シングル		27	E.PIANO / HARPSI
0	PIANO	28	E.PIANO / VIBES
1	E.PIANO	29	E.PIANO / ORGAN
2	HARPSI	30	E.PIANO / STRINGS
3	VIBES	31	HARPSI / PIANO
4	ORGAN	32	HARPSI / E.PIANO
5	STRINGS	33	HARPSI / VIBES
レイヤー		34	HARPSI / ORGAN
6	PIANO + E.PIANO	35	HARPSI / STRINGS
7	PIANO + HARPSI	36	VIBES / PIANO
8	PIANO + VIBES	37	VIBES / E.PIANO
9	PIANO + ORGAN	38	VIBES / HARPSI
10	PIANO + STRINGS	39	VIBES / ORGAN
11	E.PIANO + HARPSI	40	VIBES / STRINGS
12	E.PIANO + VIBES	41	ORGAN / PIANO
13	E.PIANO + ORGAN	42	ORGAN / E.PIANO
14	E.PIANO + STRINGS	43	ORGAN / HARPSI
15	HARPSI + VIBES	44	ORGAN / VIBES
16	HARPSI + ORGAN	45	ORGAN / STRINGS
17	HARPSI + STRINGS	46	STRINGS / PIANO
18	VIBES + ORGAN	47	STRINGS / E.PIANO
19	VIBES + STRINGS	48	STRINGS / HARPSI
20	ORGAN + STRINGS	49	STRINGS / VIBES
スプリット (低音側 / 高音側)		50	STRINGS / ORGAN
21	PIANO / E.PIANO	51	BASS / PIANO
22	PIANO / HARPSI	52	BASS / E.PIANO
23	PIANO / VIBES	53	BASS / HARPSI
24	PIANO / ORGAN	54	BASS / VIBES
25	PIANO / STRINGS	55	BASS / ORGAN
26	E.PIANO / PIANO	56	BASS / STRINGS

- 21～56のプログラム・チェンジの情報を受信すると、スプリットポイントは初期設定の位置になります。
- 57～127のプログラム・チェンジは、受信しても無視されます。

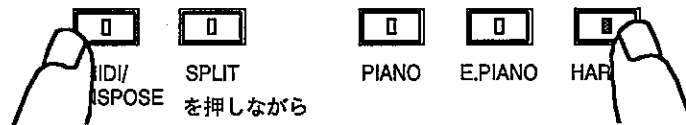
■ ■ コントロール・チェンジ

コントロール・
チェンジ・キャンセル

MIDIチャンネルごとに、ボリューム、ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルなどのコントロールを行なう情報です。

本体のダンパーペダルなどで接続した他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器から本体のボリュームやダンパーペダルなどをコントロールすることができます。この情報を送受信するときはコントロール・チェンジをイネーブルに、しないときはコントロール・チェンジをキャンセルに設定します。

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、HARPSIの音色セレクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。



キャンセル……………音色セレクターのランプが点灯します。



イネーブル……………音色セレクターのランプが消灯します。

- 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。
- コントロール・チェンジのキャンセル/イネーブルを設定するときは、ペダルを踏まない状態で行ってください。
- 外部からのコントロール・チェンジは、本体のペダルの設定の変更（レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定参照）に関係なく、レイヤー・モードやスプリット・モードにおいても、つねに両方の音色に対して有効となります。

■ ■ ベロシティ・カーブ・セレクト

ベロシティ・カーブ
の設定

ベロシティとは、鍵盤を叩くときの強さ（速さ）のことをいい、このベロシティに対する音量や音色の変化のしかたをベロシティ・カーブといいます。

C-303/505ではピアノの演奏に適したカーブになっています。

本体の鍵盤でシンセサイザーなどを鳴らす場合、このカーブでは音量や音色の変化のしかたが不自然になることがあります。このような場合、ベロシティ・カーブをシンセサイザーの演奏に適したカーブに設定することができます。

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、G7またはA7の鍵盤を押します。

ベロシティ・カーブ設定用鍵盤



- G 7……………シンセサイザーに適したカーブ
- A 7……………ピアノに適したカーブ

- 電源を入れた直後は、ピアノに適したペロシティ・カーブが自動的に設定されます。
- ペロシティ・カーブ・セレクトは、MIDIで接続された外部の音源に対してのみ機能します。本体の音はタッチコントロールの設定に従います。

□■ MIDI マルチ機能

C-303/505は同時に4つのチャンネルを受信することができます。外部のシーケンサーの演奏データを使って、最大4つの異なる音色で鳴らすことができます。このような機能をマルチティンバー機能といいます。

受信チャンネルは本体で設定されているMIDIチャンネルと、それに続く3つのチャンネルが対応します。例えば、本体のMIDIチャンネルが1の場合はチャンネル1には音色セクターで選ばれている音色が、チャンネル2にはPIANO、チャンネル3にはE.PIANO、チャンネル4にはHARPSIの音色が対応します。

MIDIチャンネルと音色は次のように対応します。

C-303/505のMIDIチャンネル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
音色セクターで選ばれている音色	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
PIANO	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	×
E.PIANO	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	×	×
HARPSI	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	×	×	×

演奏データといっしょにプログラム・チェンジの情報を受信すればプログラム・ナンバーに対応する音色（32ページ）で演奏されます。

また、本体のレコーダーを再生すると、受信チャンネルと音色は次のように切り替わります。例えば、本体のMIDIチャンネルが1の場合はチャンネル1には音色セクターで選ばれている音色が、チャンネル2にはレコーダートラック1の音色、チャンネル3にはレコーダートラック2の音色*、チャンネル4にはバウンスされた音色が対応します。MIDIチャンネルと音色は次のように対応します。

C-303/505のMIDIチャンネル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
音色セクターで選ばれている音色	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
レコーダートラック1の音色	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	×
レコーダートラック2の音色 *	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	×	×
バウンスされた音色	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	×	×	×

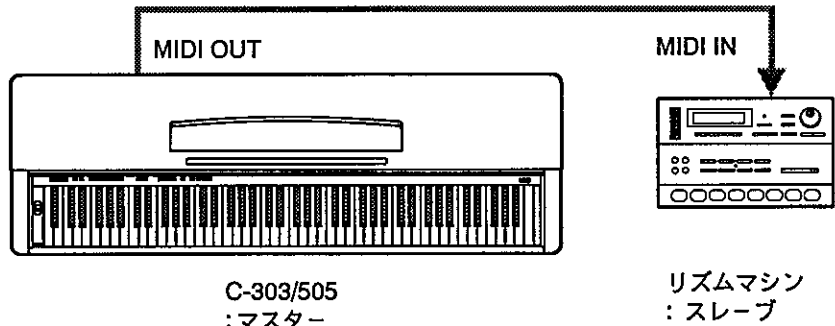
*バウンスされる前のトラック2に入っていた音色。

外部MIDI機器との同期

同期演奏させるには

本体のレコーダーは、MIDIで接続した外部のリズムマシンやシーケンサーなどと同時に演奏を行うことができます(「同期をとる」といいます)。

MIDIケーブルを使って、本体とリズムマシンを、図のように接続します。C-303/505はマスター機(コントロールを行う機器)として働きますので、接続した外部MIDI機器をスレーブ機(コントロールされる側の機器)として設定し、本体のMIDI OUTとスレーブ側のMIDI INを接続してください。



- お互いのスタート/ストップは、C-303/505のSTART/STOPスイッチで行います。
- 本体から出力されるMIDIクロック(テンポを合わせるための信号)はテンポ・ボリュームに従います(接続するMIDI機器のクロックの設定などはそれぞれの取扱説明書をご覧ください)。

MIDIデータ・ダンプ機能

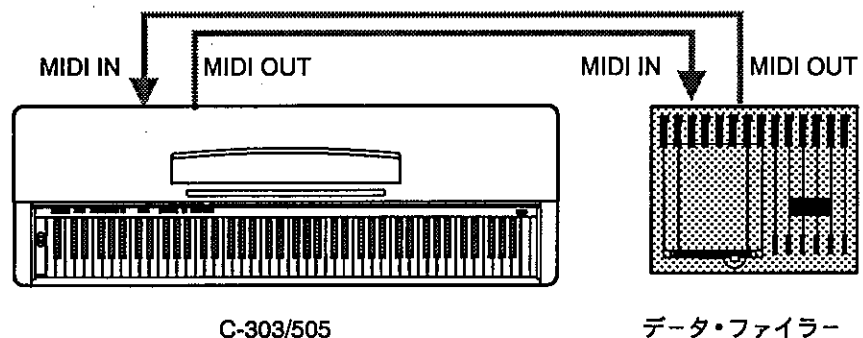
本体のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータ・ファイラー(記憶装置)に保管します。データ・ファイラーに演奏データを保管して、必要に応じて曲を読み込んで再生や録音の続きを行います。

- データ・ファイラーを使って演奏データの管理を行うときは、必ずデータ・ファイラーの取扱説明書をよくお読みになってください。

◆ 演奏データをデータ・ファイラーに保管するには

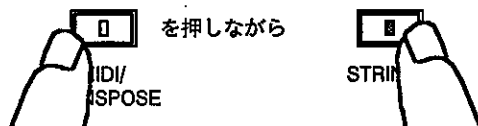
■ □ 1

C-303/505とデータ・ファイラーをMIDIケーブルを使って下図のように接続します。



- 2 データ・ファイラーを操作して、C-303/505からのMIDIデータを、受信待ちの状態にしておきます(データの受信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください)。

- 3 MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、音色セクターのSTRINGSを押します。
データ・ダンプが開始し、演奏データがデータ・ファイラーに送信されます。



- データ・ダンプの実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。
- データ・ダンプに要する時間は演奏データの量によって異なります。

◆ データ・ファイラーの演奏データを、本体のレコーダーに戻すには

- 1 C-303/505とデータ・ファイラーをMIDIケーブルで正しく接続します。

- 2 本体の電源を入れた状態にしておきます。
データ・ファイラーを操作して、あらかじめ保管しておいたC-303/505の演奏データを送信します(データの送信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください)。

- データ・ダンプの実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。

データ・ファイラーから演奏データを受信している間は、本体から音は出ません。データの受信が終了、演奏データが本体のレコーダー内に元どおりに正しく納められますと、音の出る通常の状態に戻ります。

ペダルの設定の変更の情報(レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定参照)は、データ・ファイラーに記録しておくことはできません。

□ ■ MIDI インプリメンテーション

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk=15-113	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk=15-113 vvv vvvv=1-127	A
1011 nnnn	0100 0000	0000 0000	Damper Off (Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0000	0111 1111	Damper On (Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0000 0000	Sostenuto Off (Sostenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0111 1111	Sostenuto On (Sostenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0000 0000	Soft Off (Soft Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0111 1111	Soft On (Soft Pedal)	C
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change ppp pppp=0-127	P*

nnnn : MIDI Channel No.(0-15)Usually Global Channel.

ENA=A : Always Enabled

C : Enabled when Control Filter Is ENA

P : Enabled when Program Filter Is ENA

*Program change is transmitted through keyboard, regardless of ENABLE/CANCEL.

1-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1000	Timing Clock *2
1111 1010	Start *2
1111 1011	Continue *2
1111 1100	Stop *2
1111 1110	Active Sensing

*2 : Transmits when Recorder is playing or Recording

2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On vvv vvvv=1-127	A
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume	C
1011 nnnn	0100 0000	00xx xxxx	Damper Off	C
1011 nnnn	0100 0000	01xx xxxx	Damper On	C
1011 nnnn	0100 0010	00xx xxxx	Sostenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	01xx xxxx	Sostenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	00xx xxxx	Soft Off	C
1011 nnnn	0100 0011	01xx xxxx	Soft On	C
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 110x	0000 0000	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	000m mmmm	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	(All Notes Off)	A
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change	

kkk kkkk : Note No.

vvv vvvv : Velocity

x : Random

ENA Same as TRANSMITTED DATA

2-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active Sensing

3. MIDI EXCLUSIVE FORMAT (R:Receive, T:Transmit)

3-1 SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE

1st Byte = 1111 0000 (F0)	: Exclusive Status] EX.Header
2nd Byte = 0100 0010 (42)	: KORG ID	
3rd Byte = 0011 nnnn (3n)	: Format ID n : Global.ch.	
4th Byte = 0011 0111 (37)	: Device ID	
5th Byte = 0100 1000 (48)	: Function=All Sequencer Data Dump	
6th Byte = 0ddd dddd (dd)	: Data	
...	...	
LasIByte = 1111 0111 (F7)	: End of Exclusive EOX	

ALL SEQUENCER DATA DUMP R, T

Byte	Description
F0, 42, 3n, 37	EXCLUSIVE HEADER
0100 1000	ALL SEQUENCER DATA DUMP 48H
00mm mmmm] channel 0 status (See Note 1)
0bbb xxxx	
0kkk kkkk	
0ppp pppp	
0qqq qqqq] channel 15 status (See Note 1)
00mm mmmm	
0bbb xxxx	
0kkk kkkk	
0ppp pppp] Track 1 Data size(=0hss ssss srrr rrr)
0qqq qqqq	
0rrr rrrr	
0sss ssss	
0000 000h] Track 2 Data size(0hss ssss srrr rrr)
0ddd dddd	
0rrr rrrr	
0sss ssss	
0000 000h] Track 2 Data
0ddd dddd	
0000 cccc	Next Bounce Channel
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

Note 1)

mmmm : Program No.

bbb : Volume balance

kkkkkkk : Split point

ppppppp : Upper Split Octave Value

qqqqqqq : Lower Split Octave Value

ch0:Track1,ch1:Track2,ch2~ch15:Bounce channel(Track2)

C-303 / 505 MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション...	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1 1-16	1-16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	X X *****	3 X	
ノート ナンバー: 音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	1-127 X	1-127 X	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	X X	X X	
ピッチ・ベンダー	X	X	
コントロール	X	○	ボリューム *1
チェンジ	○	○	ダンパー・ペダル *2
	○	○	ソステヌート・ペダル *2
	○	○	ソフト・ペダル *2
プログラム チェンジ: 設定可能範囲	0-127 *****	0-56 0-56	*3
エクスクルーシブ	○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
コモン : ソング・ポジション	X	X	
: ソング・セレクト	X	X	
: チューン	X	X	
リアル : クロック	○	X	
タイム : コマンド	○	X	
その他 : ローカルON/OFF	X	○	
: オール・ノート・オフ	X	○ 123-127	
: アクティブ・センシング	○	○	
: リセット	X	X	
備考	*1 コントロール・チェンジがイネーブルに設定されているとき、受信する。 *2 コントロール・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *3 プログラム・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 鍵盤を使ったプログラム・チェンジは、イネーブル/キャンセルに関係なく送信する。		

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
X: なし

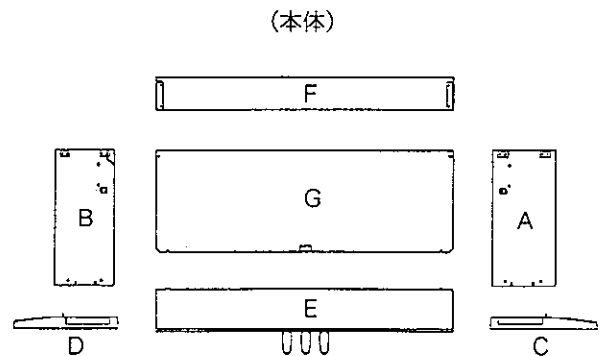
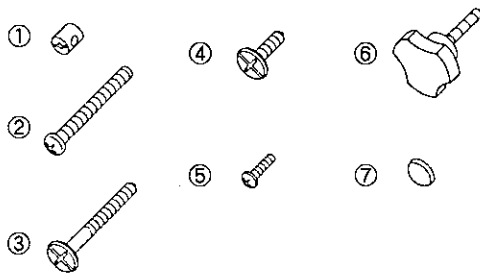
スタンドの組み立て方

— C-303 用スタンド —

- 部品や部品の向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず二人以上で行なってください。
- ピアノ本体のキーカバーのテープと譜面立てのテープは、組み立てが終了するまではがさないでください。
- 組み立てには、+(プラス)のドライバーが必要です。ご用意ください。
- 箱を開けて部品を取り出し、各部品がそろっているかを確認してください。

①丸ナット	4
②ジョイントコネクターボルト(ゴールド)	4
③ジョイントコネクターボルト(ブラック)	4
④ネジ(大)	4
⑤ネジ(小)	4
⑥ノブボルト	4
⑦キャップ	8

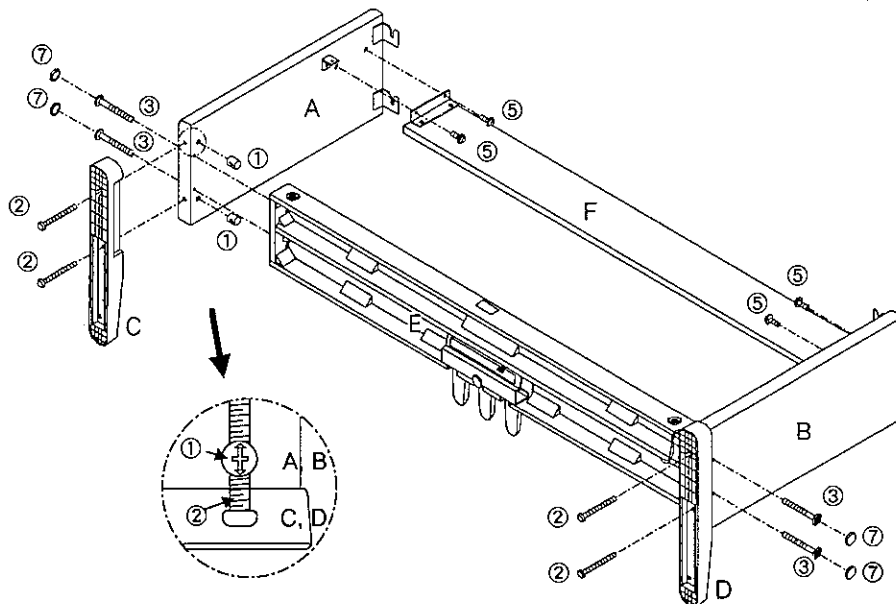
A サイドボード(右)	1
B サイドボード(左)	1
C スタンドベース(右)	1
D スタンドベース(左)	1
E ペダルケーシング	1
F 梁板	1
G 背板	1



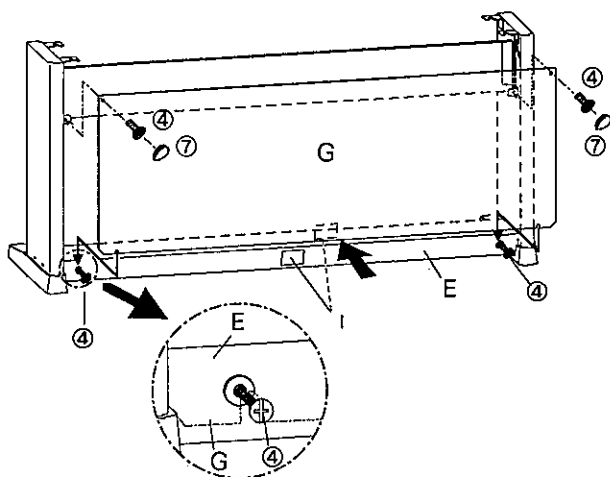
1. サイドボード(A)(B)に丸ナット①を取り付けます。ドライバーで、丸ナットの表面矢印が拡大図の向きになるように位置合わせをして、(A)とスタンドベース(C)、(B)と(D)をネジ②で固定します。

2. (A)(B)にペダルケーシング(E)をネジ③で固定します。(キャップ⑦は全てのネジ止めが終了してからはめます。)

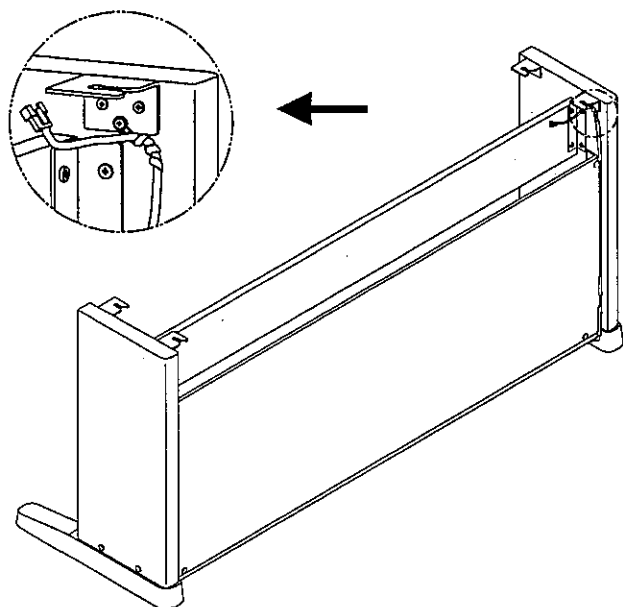
3. 梁板(F)をネジ⑤で図のように固定します。



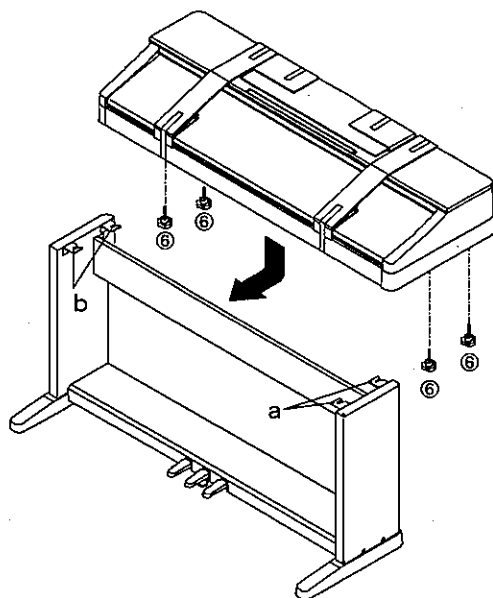
4. (E)にネジ④を1cm程度ねじ込み、その上に背板(G)をのせてネジ④で4カ所を固定します。背板を固定したのち、面ファスナー(I)が密着するように背板を後ろから軽く押してください。(キャップ⑦は全てのネジ止めが終了してからはめます。)



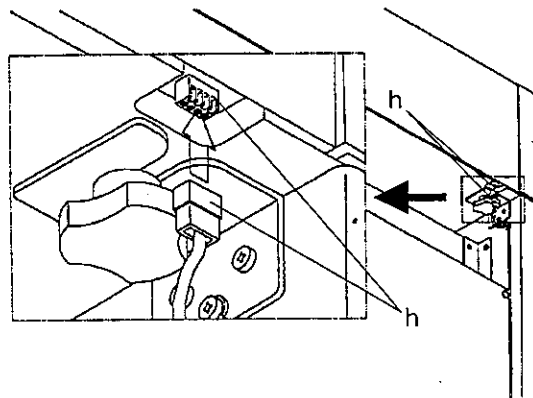
5. コードはたるまないように図のように止めてください。



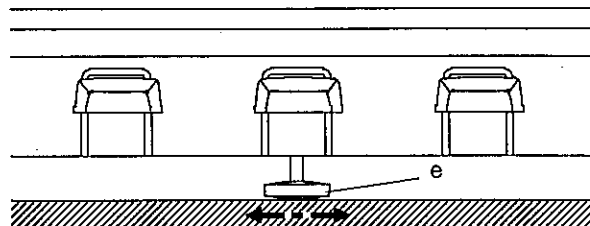
6. ピアノ本体をサイドボード上部の金具(a,b)に合うように後方より手前にスライドさせて、金具の穴に合わせてノブボルト⑥で止めます。



7. コネクター(h)を差し込みます。コネクターの差し込み方向に注意してください。



8. ペダルケーシング底部のアジャスター(e)を、床に接触するまで調節してください。きちんと調節されていないと、音がびりつくことがあります。

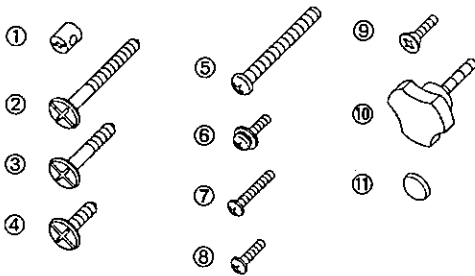


- 長期間ご使用になりますとネジが緩み、スタンドの揺れがはげしくなることがあります。このような場合は各ネジをもう一度締め直してからご使用ください。
- 使用場所を移動する場合も同様に各ネジを締め直してから移動させてください。

— C-505用スタンド —

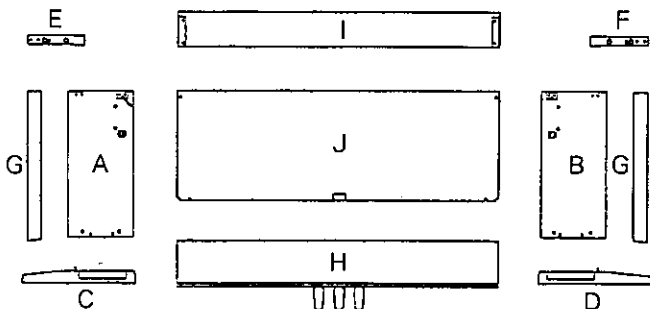
- 部品や部品の向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず二人以上で行なってください。
- ピアノ本体のキーカバーのテープと譜面立てのテープは、組み立てが終了するまではがさないでください。
- 組み立てには、+(プラス)のドライバーが必要です。ご用意ください。
- 箱を開けて部品を取り出し、各部品がそろっているかを確認してください。

①丸ナット	4
②ジョイントコネクターボルト(長)	4
③ジョイントコネクターボルト(中)	4
④ジョイントコネクターボルト(短)	2
⑤ネジ(金色)	4
⑥ワッシャー付きネジ(黒色)	4
⑦ネジ(黒色,長)	4
⑧ネジ(黒色,短)	4
⑨皿ネジ	4
⑩ノブボルト	2
⑪キャップ	8

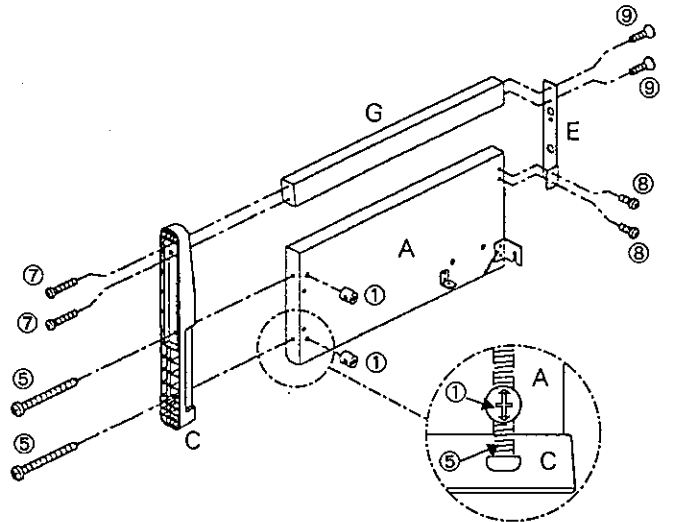


A サイドボード(左)	1
B サイドボード(右)	1
C スタンドベース(左)	1
D スタンドベース(右)	1
E 金具(左)	1
F 金具(右)	1
G 前脚	2
H ペダルケーシング	1
I 梁板	1
J 背板	1

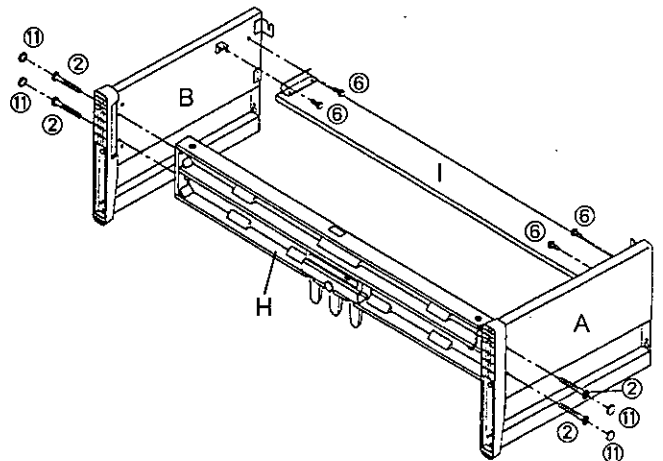
(本体)



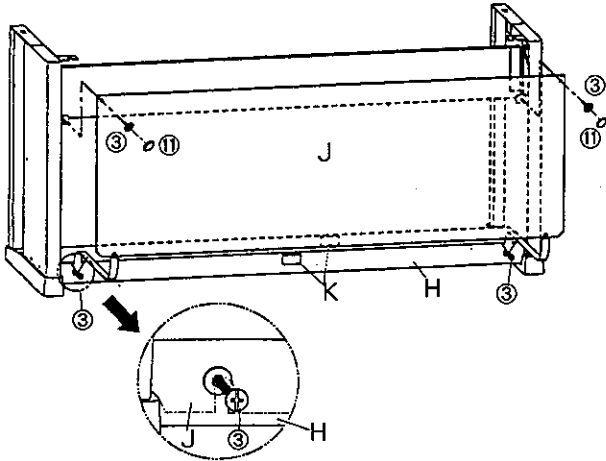
1. サイドボード(A)にナット①を取り付けます。ドライバーで、丸ナットの表面矢印が拡大図の向きになるように位置合わせをして、スタンドベース(C)をネジ⑤で固定します。同様の作業をサイドボード(B)、スタンドベース(D)でも行います。
2. (A)に金具(E)をネジ⑧で固定します。同様に(B)に金具(F)を固定します。
3. 前脚(G)を(C)(E)にそれぞれネジ⑦⑨で固定します。同様に(D)(F)にも(G)を固定します。



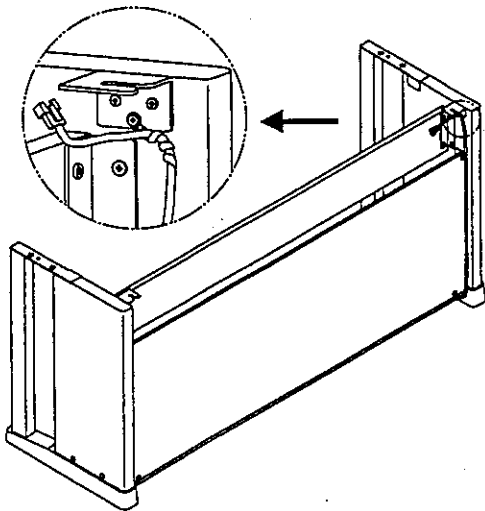
4. (A)(B)にペダルケーシング(H)をネジ②で固定します。(キャップ⑪は全てのネジ止めが終了してからはめます。)
5. 梁板(I)をネジ⑥で図のように固定します。



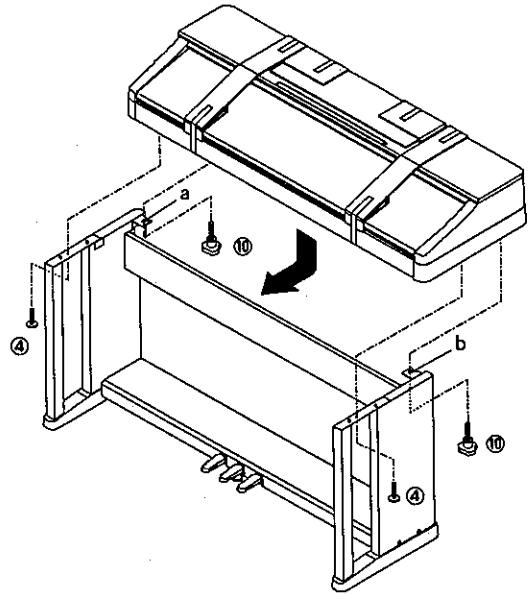
6. (H)にネジ③を1cm程度ねじ込み、その上に背板(J)をのせてネジ③で4カ所を固定します。背板を固定したのち、面ファスナー(K)が密着するように背板を後ろから軽く押してください。(キャップ⑩は全てのネジ止めが終了してからはめず。)



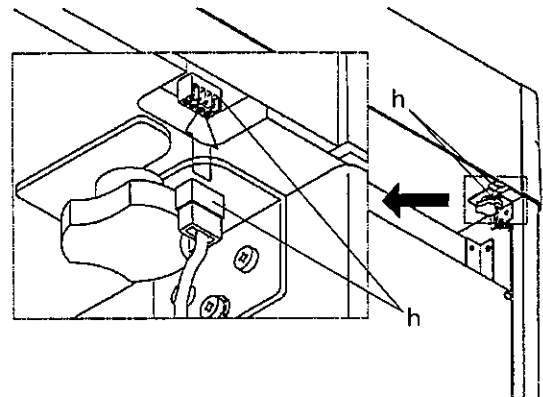
7. コードはたるまないように図のように止めてください。



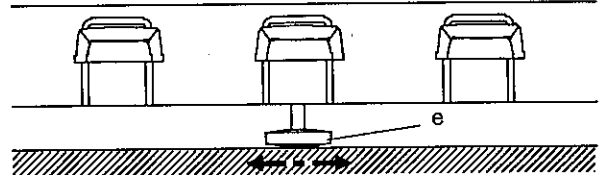
8. ピアノ本体をサイドボード上部の金具(a,b)に合うように後方より手前にスライドさせて、金具の穴に合わせてネジ④とノブボルト⑩で止めます。



9. コネクター(h)を差し込みます。コネクターの差し込み方向に注意してください。



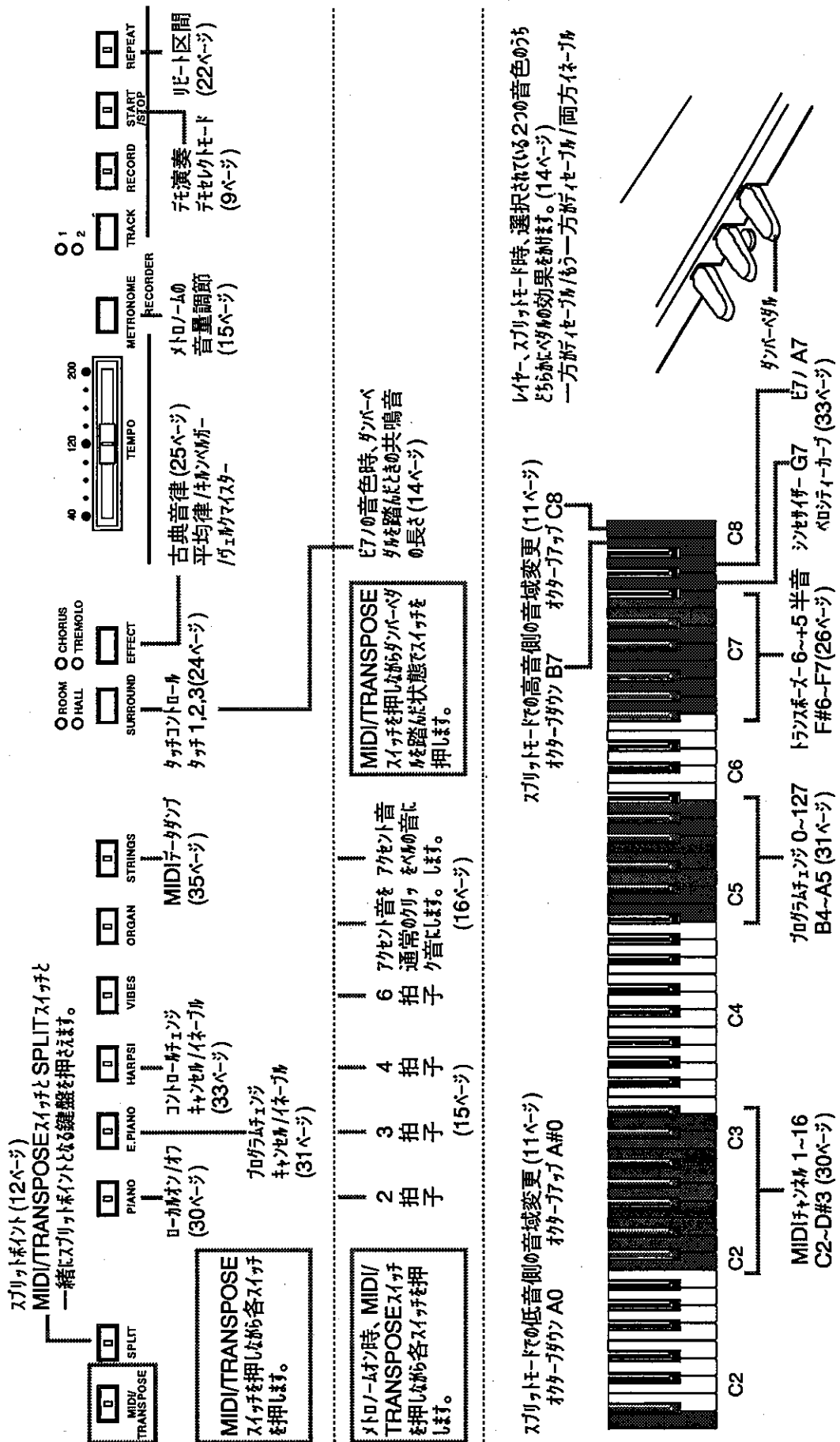
10. ペダルケーシング底部のアジャスター(e)を、床に接触するまで調節してください。きちんと調節されていないと、音がびりつくことがあります。



- 長期間ご使用になりますとネジが緩み、スタンドの揺れがはげしくなることがあります。このような場合は各ネジをもう一度締め直してからご使用ください。
- 使用場所を移動する場合も同様に各ネジを締め直してから移動させてください。

MIDI/TRANPOSE スイッチの機能

MIDI/TRANPOSE スイッチは、トランスポーズ機能や MIDI モードの設定の他にさまざまな機能を設定するとき 사용됩니다。



故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、次の事柄を確認してください。

それでも症状が改善されない場合は、お近くの販売店、またはコルグ・サービスセンターまでお問い合わせください。

症状	対策	ページ
電源が入らない	電源コードがソケットにしっかり入っていますか？	7
音が出ない	①ボリュームが0になっていませんか？	7
	②MIDIモードでローカルオフになっていませんか？	30
	③ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？	6

仕様

	C-303	C-505
鍵盤	88鍵(A0~C8)	
音色	6音色: ピアノ, エレクトリック・ピアノ, ハープシコード, パイプ, オルガン, スtrings, [ベース(スプリットモード設定時)]	
最大同時発音数	32音	
効果	サラウンド(ルーム, ホール), エフェクト(トレモロ, コーラス), ブリリアンス, レゾナンスシミュレーション	
レコーダー	最大2,600ノート: テンポ, メトロノーム, トラック(1, 2), レコード, スタート/ストップ, リピート, (バウンス機能付き)	
キーボードモード	シングル, レイヤー, スプリット, (MIDIマルチ)	
コントロール	ボリューム, パワースイッチ, キートランスポーズ, ピッチコントロール, タッチコントロール, 古典音律	
ペダル	ダンパー, ソフト, ソステヌート	
接続端子	ヘッドホン×2, AUX IN(L, R), AUX OUT(L, R), MIDI (IN, OUT, THRU)	
メインアンプ	30W × 2	
スピーカー	16cm × 2	
定格電源	AC100V 50Hz/60Hz	
消費電力	80W	
外装仕上げ	ダークワインレッドウォルナット	
外形寸法	1382(W) × 456.5(D) × 818.5(H)mm	1382(W) × 456.5(D) × 838.5(H)mm
重量(スタンド含)	55.4kg	60.3kg
装備	大型譜面立て, スライド式キーカバー	
付属品	ヘッドホン	

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

- ①消耗部品(電池など)を交換する場合。
- ②輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
- ③天災(火災等)によって生じた故障。
- ④故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
- ⑤コルグサービスステーション及びコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
- ⑥保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
- ⑦保証期間が切れている場合。
- ⑧日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3カ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションセンターまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと、修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任をもってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品(パネル、スイッチなど)の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーションセンター	〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5 新宿第一富士ビルB1F ☎ (03)3363-5995
第一営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎ (03)3323-5241
第二営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎ (03)3323-5244
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎ (052)832-1419
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F ☎ (06)374-0691
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F ☎ (092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。
営業技術課 〒157 東京都世田谷区南烏山4-28-20 ☎(03)3309-7004

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

KORG

株式会社コルグ

■本社: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)3325-5691(代) ■インフォメーションセンター: 〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5第一JFE4B1 ☎(03)3363-5995
■第一営業所: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)3323-5241 ■第二営業所: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)3323-5244
■名古屋営業所/ショップ/スタジオ: 〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎(052)832-1419(代)
■大阪営業所: 〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F ☎(06)374-0691(代) ■福岡営業所: 〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田EMIF ☎(092)531-0166(代)

© KORG INC. 1994

0802 GH PRINTED IN JAPAN